

文部科学省委託事業
令和元年度

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

報 告 集



青森県道徳教育推進協議会

発 刊 に よ せ て

青森県道徳教育推進協議会

会 長 八 木 橋 房 代

平成30年度から小学校で、令和元年から中学校で、道徳科の教科書が配付され、道徳科がスタートしたところです。「考え、議論する道徳」への転換、「主体的・対話的で深い学び」の実現、いじめ問題への対応の充実、認め励ます評価の在り方等、まだまだ多くの課題が指摘されています。「道徳科」を校内研究に掲げ、道徳教育の充実に取り組む学校も増えているようですが、道徳科の実施に向けた諸条件の整備が急務となっています。

このような変革の時期にあって、今年度、三沢市立おおぞら小学校及び三沢市立第三中学校において、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業の委託を受け、研究が行われました。

おおぞら小学校では「主体的に考え、学び合う子どもの育成～心を動かし、気付きを大切にす道徳教育の推進～」の研究主題の下、学校の特色を生かした重点的な道徳教育の展開や道徳教育の指導体制の整備、学習活動において問題意識をもたせる「しかけ」の工夫、お互いの考えや気付きを大切にしながら「学び合える学習の仕方」の工夫、授業における振り返る活動を適切に設定し、大きくくりなまとまりを踏まえた個人内評価の在り方について共通理解を図ること等を重点として実践を積み重ねてこられました。

第三中学校では「思いやりと道徳的な判断力を高めるための指導の研究～道徳的価値について、考え議論する特別の教科道徳の授業実践を通して～」の研究主題の下、多面的・多角的に考えさせるための教材研究、「考え、議論する道徳」の授業展開や指導法の工夫、「道徳科」の授業の定着と発展を目指した全体計画及び年間指導計画の改善と活用、道徳科の大きくくりなまとまりを踏まえた評価の視点による学習計画の在り方の研究等を重点として実践を積み重ねてこられました。

両校とも年間を通して、道徳科における指導の充実に向けて研究と工夫を重ねるとともに、そこで高められた道徳的価値が道徳的实践へとつながるように、教育活動全体を通じて、道徳教育が推進されておりました。両校の実践は、本県における道徳教育及び道徳科の推進における一つの指針となるべきものであるといえます。

各学校におかれましては、両校のすばらしい実践を参考として、再度、自校の取組の見直しを図っていただき、活用できるような取組については各学校の実態に即した形で取り入れることで、今後「道徳科」が道徳教育の真の要としての役割を果たせるよう、取組を進めていただければと思います。

最後に、本事業推進に当たり御支援、御尽力いただきましたおおぞら小学校、第三中学校、三沢市教育委員会をはじめ関係の皆様にお礼を申し上げますとともに、本報告集が道徳教育の指針の一つとして活用されることを祈念いたします。

挨拶

青森県教育庁

学校教育課長 長内 修吾

小・中学校の道德教育については、学習指導要領の改訂により、道德の時間が「特別の教科 道德」となるなど、学校教育における道德教育の充実がより一層重要となっております。

このため、県教育委員会では、道德教育の充実に向け、様々な施策を展開するとともに、文部科学省委託事業「道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の中で、道德教育推進協議会の開催、研究指定校による特色ある道德教育の実践、道德教育パワーアップ協議会の開催等に取り組んで参りました。

今年度は、三沢市教育委員会の御指導の下、三沢市立おおぞら小学校、三沢市立第三中学校が研究指定校として研究実践に当たっていただきました。両校とも、教育活動全体を通じて行う道德教育の指導体制の整備、教員の指導力向上、小・中学校の連携や家庭・地域との連携など、新学習指導要領の趣旨に沿った道德教育の充実に向けた実践を通じた研究が行われました。

三沢市立おおぞら小学校においては、児童に問題意識をもたせる「しかけ」の工夫、多面的・多角的に考え、考えを深めるための学び合う活動の工夫に主として取り組み、三沢市立第三中学校においては、道德的課題を自分のこととして受け止め、考える、問題解決的な授業の実践や、「考え、議論する道德」の在り方の模索・実践に取り組み、両校とも成果を挙げられました。

両校の研究成果は、道德教育パワーアップ協議会において全県から集まった参加者に対して発表され、今年度の研究成果を広く周知することができました。

また、参加者からの質疑応答が活発になされるなど、参加者の興味・関心の高さがうかがわれるとともに、自校の道德教育の取組への参考になったことと思います。

本報告集は、両校の取組の成果等をまとめたものですが、県内全ての学校において、児童生徒の豊かな心の育成のため、こうした成果を積極的に活用し、教育活動全体を通して、自校の道德教育の充実に役立てていただきたいと思います。

最後に、本報告集の作成に当たり、日々の教育実践を積み重ね、大きな研究成果を挙げられた三沢市立おおぞら小学校、三沢市立第三中学校、御指導いただいた三沢市教育委員会、県道德教育推進協議会会長である青森市立古川小学校八木橋校長及び副会長である青森市立三内中学校渡邊校長をはじめとする協議会委員の皆様へ感謝申し上げます、御挨拶といたします。

も く じ

○発刊によせて

青森県道徳教育推進協議会 会長 八木橋 房代

○挨拶

青森県教育庁 学校教育課長 長内 修吾

○三沢市立おおぞら小学校

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業完了報告書

1 道徳教育に関する改善状況の概要	1
2 実施した研究内容	2
3 実施経過とその体制	5
4 取組の成果と課題	6

資料

1 道徳公開 小中全体計画（方針）	1 3
2 特別の教科 道徳 全体計画	1 4
3 おおぞら 道徳プラン 5 学年	1 5
4 算数科と道徳科の関連	1 7

学習指導案

第1 学年 1 組	1 8
第6 学年 1 組	2 1

○三沢市立第三中学校

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業完了報告書

1 道徳教育に関する改善状況の概要	2 7
2 実施した研究内容	2 8
3 実施経過	3 1
4 取組の成果と課題	3 2

学習指導案・研究協議記録

第1 学年 1 組	3 5
第2 学年 1 組	3 8
第3 学年 1 組	4 3
第2 学年 1 組	4 7

資料

1 第1 学年 年間指導計画	5 3
2 第2 学年 年間指導計画	5 3
3 第3 学年 年間指導計画	5 4
4 道徳通信	5 5

三沢市立おおぞら小学校



道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業 完了報告書 (三沢市立おおぞら小学校)

1 道徳教育に関する改善状況の概要

道徳教育において、平成27年に学校教育法施行規則及び学習指導要領の一部改正が行われ、「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）が新たに位置付けられた。

本校では、今年度から、校内研修において「主体的に考え、学び合う子どもの育成～心を動かし、気付きを大切にする道徳教育の推進～」を研究主題に掲げ、道徳教育の推進に取り組んでいる。

今年度は、道徳教育の抜本的改善・充実にを図るために、次の3点を方針に掲げた。

- (1) 道徳教育の目標達成に資する校内指導体制づくりを行う。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習過程や指導方法の工夫を進める。
- (3) 道徳科の評価の在り方を研究する。

本校の道徳教育の抜本的改善・充実に推進するために、次の項目を重点にして取り組んだ。

- (1) 本校の特色を生かした重点的な道徳教育の展開及び道徳教育の指導体制の整備を行う。
- (2) 主体的に考え、学び合う児童を育てるために、学習活動（指導計画）の中に問題意識をもたせる「しかけ」を工夫すること、またお互いの考えや気付きを大切にしながら「学び合える学習の仕方」を工夫する。
- (3) 道徳科における児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するために、児童が学習したことを振り返る活動を適切に設定し、大きくくりなまとまりを踏まえた個人内評価の在り方について共通理解を図る。

これらの結果、大変短い研究期間ではあるが、次のような改善が見られた。

- (1) 本校の特色である第三中学校との連携を図るために、児童会活動、学校行事、家庭学習ノートなどを小中合同で指導を行っている。また、小学校と中学校の9年間を見越して、小中連携で共通した道徳の重点項目を定めて取り組むために、研究計画を立てる段階から協力し、講師を招聘して共同の研修会を行ったり、お互いの授業を参観したりするなど、多くの面で連携して取り組むことができた。



小中合同あいさつ運動



小中合同運動会



家庭学習ノートの掲示

- (2) 学習活動（指導計画）の中に、児童に問題意識をもたせる「しかけ」を取り入れることによって、児童が自分事として学習課題を捉えたり、多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めたりするための工夫について研究を進めることができた。
- (3) 授業で児童が記述したワークシートを保存した「道徳ファイル」や、児童が記述したワークシートを添付した「道徳ノート」を活用することによって、児童の道徳の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための資料とすることができた。さらに、この「道徳ファイル」や「道徳ノート」を来年度も継続することによって、児童一人一人の学習状況や成長の様子を計る資料の充実に努めることにした。

2 実施した研究内容

(1) 地域の実態や課題に応じた特色ある道德教育の取組の概要

ア 第三中学校との連携

この研究は、隣接した校舎を持つ三沢市立第三中学校と小中連携で行った。研究を進めるにあたって、平成30年度「道德教育小中全体計画（方針）」が立てられた。（資料1）

この中で、小中の9年間で育てたい児童生徒の姿を「他者とよりよく生きるための自立をめざし、自分で判断し、行動できる児童・生徒」と設定した。また、9年間で育てたい重点項目を「希望と勇気、努力と強い意志」とした。（中学校「希望と勇気、克己と強い意志」）

もう一つの重点項目を「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」とした。

共通した重点項目を設けたことに加えて、6月に秋田公立美術大学から毛内嘉威教授を招いて小中合同の研修を行ったり、研修内容や日程について情報交換を行ったりするなど、多くの面で協力がなされた。

また、第三中学校と互いに道德科の授業参観をして学び合い、意見交換を行うことで、小学校・中学校間の滑らかな接続を意識した取り組みを行うことができた。



毛内教授を招いた合同研修会



第三中教員も参加した道德科授業

イ 道德教育全体計画の改善及び道德教育全体計画別様の改善と活用

道德教育全体計画（資料2）を見直して改善することによって、道德の指導方針や道德科の重点目標、各教科・特別活動と関連を図った指導について確認し、本校の重点目標を改善することで道德教育推進に向けて校内の共通理解を図ることができた。

また、道德教育推進教師を中心として道德教育全体計画別様の改善を行うことによって、より本校の実態に即した道德科の年間指導計画を立て、計画的な道德科の授業実践に役立てることができた。

ウ 「おおぞら道德プラン」の作成と活用

本校で定めた道德の重点項目2つ（「希望と勇気、努力と強い意志」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」）について「おおぞら道德プラン」を各学年で作成した。（資料3）

これは、重点項目に関わる道德科の授業のねらいと各教科、学校行事等との関連を表したものである。この「おおぞら道德プラン」を作成・活用することによって、道德科の授業のねらいと各教科等に含まれる道德的価値との関連を明確にした指導を行うことができた。

エ 算数科との関連を図った指導

本校では平成30年度から算数科の構内研究に取り組んでいる。今年度取り組む道德科の研究も、先行する算数科と関連させていくことが有効と考え、算数科と関連を図った指導（資料4）を作成した。算数科と道德科の指導過程において、「問題・資料提示の工夫、教材との出会わせ方」「解法の見通しを持たせる、価値への方向付け」などの「しかけ」を工夫することに共通して取り組むことができた。

(2) 道徳科の授業研究

ア 研究目標

主体的に考え、学び合う児童を育てるために、学習活動（指導計画）の中に問題意識をもたせる「しかけ」を工夫すること、またお互いの考えや気づきを大切にしながら「学び合える学習の仕方」を工夫する。

イ 研究仮説 1

学習活動（指導計画）の中で、児童に問題意識をもたせる「しかけ」を工夫することで、学習課題を捉え、自分との関わりで考えることができるのではないかと。

問題意識を持たせる「しかけ」の工夫

- ・ 事前アンケートの活用
- ・ 資料との出会わせ方
- ・ 挿絵、視聴覚資料の提示
- ・ 学習課題との出会わせ方
- ・ 発問、問い返し
- ・ 板書
- ・ 役割演技

ウ 研究仮説 2

学習活動の中で、児童が自分との関わりで考えたことを基に、学び合う活動を工夫することで、多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることができるのではないかと。

学び合う活動の工夫

- ・ 話し合う必要感を持たせる
- ・ 話し合う形態（ペア、グループ、全体）
- ・ 役割演技（児童対児童、児童対教師）
- ・ 発問、問い返し
- ・ 板書で学習の流れ、思考の視覚化（心情スケール、ネームカード）
- ・ まとめ、振り返りの手立て（ワークシート、道徳ノート）

エ 検証授業及び協議会の実施

9月の公開研究発表会を前に、6月に3学年と5学年で道徳科検証授業と研究協議を行った。

3学年は、B-（6）親切、思いやり 教材名「フローレンス・ナイチンゲール物語」（学研『みんなの道徳』3年）の授業である。

この授業の中心発問につながる前の発問で、老人に服と食べ物を届けようとしたのに追い返される主人公の思いを児童に考えさせるために、児童対教師の役割演技を取り入れた。



児童の自由な考えを即興的に演じながら表出させる児童対児童の役割演技に対して、教師がインタビューするように児童に問うこの役割演技は、児童の考えを一步深めた場面では有効ではないかと考えられる。インタビューされた児童はその後、自分の考えを板書するのだが、この文字が小さくて読みにくかったので、実践を重ねながら改善し

ていく必要があることが協議会で話題になった。

5学年は、A－（5）希望と勇気、努力と強い意志 教材名「世界に羽ばたく 航平ノート」（学研『みんなの道徳』5年）の授業である。

授業の導入で、体操の内村航平選手がオリンピック体操総合で金メダルを取ったときの演技をビデオで短く紹介した。



そして、内村選手が幼少期からオリンピックで金メダルを取るまでの歩みを、挿絵を黒板に掲示しそれぞれの場面での努力や悩みを黒板上に整理しながら、悩みを抱えるごとに内村選手はどんな気持ちでいたのか考えさせた。協議会では、5年生の子どもたちに、運動会や陸上記録会の時に頑張ったことを思い出させながら発言

を拾うことで、輝かしい実績をもつ内村選手と自分たちを結び付けて考えさせることができたことが成果として話し合われた。

（3）道徳科の評価の在り方の研究

ア 「道徳ノート」「道徳ファイル」の活用及び児童の変容把握の方法

児童の道徳科の学習状況を把握し指導に活かすために、各学年担任がどちらかを選択して、「道徳ノート」または「道徳ファイル」を活用している。これらは、授業の終末で児童が記述したワークシートや授業の感想を綴ったものである。今年度から、児童一人一人の道徳性に関わる成長の様子をより継続的に把握するために、6年生を除いて、今年度のものを次年度にも残して活用することにした。

道徳科の評価としては、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行っている。評価の観点は以下のとおりである。

研究仮説の検証に関わる評価の視点

「自分との関わりで考えているか」

- ・教科書の登場人物に自分を投影して考えている。
- ・学習課題について自分事として考えている。

「多面的・多角的に考えているか」

- ・友達の意見と比べながら考えている。
- ・立場や考え方の違いを踏まえて考えている。
- ・以前の学習と関連させて考えている。

「自己の生き方について考えを深めているか」

- ・今までの自分を振り返り、今後どう行動するかを具体的に考えている。
- ・以前と比べて道徳的価値の理解が深まっている。

イ 教室環境の整備

授業の振り返りとして、また以前に行った内容項目と関連させて指導する際に活用するため、全学年の教室に「道徳コーナー」を設けている。



ウ 児童に対する「道徳意識調査」と「道徳科授業アンケート」の実施 3学年の道徳コーナー

7月と11月に児童に対して「道徳意識調査」と「道徳科授業アンケート」を行った。今年度の取組の成果と課題について把握するために、全学年児童を対象に実施した。それぞれ8つの項目をアンケート形式で調査したものである。

その結果と考察については、後述する。

3 実施経過とその体制

月	取組の内容	備考
4 ・ 5	研究主題，研究目標，研究仮設の共通理解 「道徳コーナー」の設置と児童アンケートの実施について 「道徳ノート」または「道徳ファイル」について	
6	校内研修計画書共通理解 道徳科全体研修 道徳科小中連携研修会 各ブロック指導案検討 低学年検証授業，研究協議 3学年 教材名「フローレンス・ナイチンゲール物語」 道徳科全体研修 高学年検証授業，研究協議 5学年 教材名「世界に羽ばたく 航平ノート」	講師：毛内教授 3学年対象，授業者高田 指導助言：毛内教授 5学年対象，授業者種市
7	児童アンケート実施 第1回青森県道徳教育推進協議会 低学年指導案検討 高学年指導案検討	道徳教育推進教師参加 講師：原田指導主事 講師：江渡課長補佐
8	各ブロック指導案検討 全体指導案検討	
9	部会協議会の流れ確認 小・中学校道徳教育研究協議会準備 小・中学校道徳教育研究協議会	本校会場 授業者 1学年 牧 6学年 池田
10	参加者アンケートの集計，結果確認	
11	児童アンケートの実施	
12	児童アンケート集計 研究のまとめ	
1	第2回青森県道徳教育推進協議会 県道徳教育パワーアップ研修会（研究成果発表）	道徳教育推進教師参加 道徳教育推進教師発表
2	研究紀要作成 次年度研究の方向付け	

研究体制

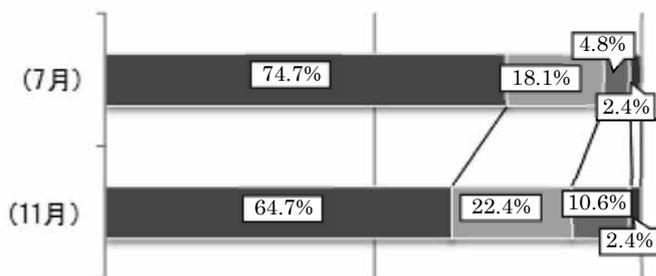
研究推進委員会 校長・教頭・教務主任・道徳教育推進教師・研修主任	
全 体 会	
低学年ブロック	高学年ブロック
1学年担任 2学年担任 3学年担任（道徳教育推進教師） 教務主任 教頭	4学年担任 5学年担任 6学年担任 わかくさ担任 道徳教育推進教師 校長

4 取組の成果と課題

(1) 「道徳意識調査」の比較（7月と11月に実施）

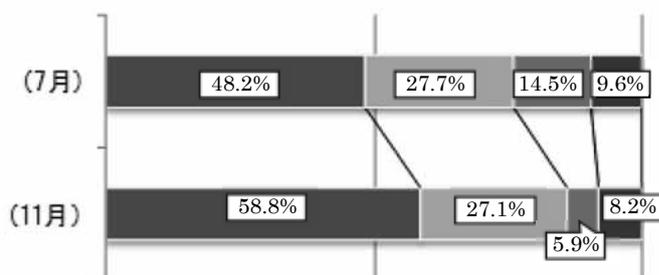
凡例： ■ そう思う □ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

① ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。



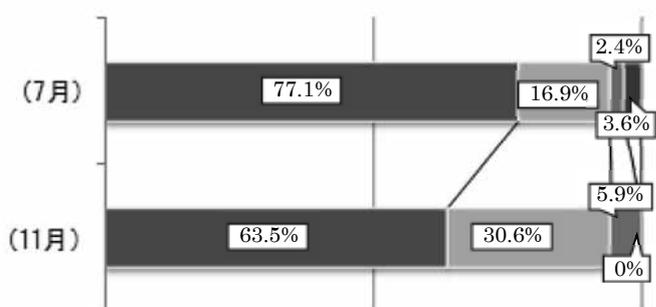
「そう思う」「だいたいそう思う」と回答（以下：肯定的に回答）した割合がどちらの月も85%を超えて高かった。しかし、7月と11月の比較では、92.8%から87.1%となった。全校的に肯定的な回答がやや減少する傾向となった。

② 自分には、よいところがあると思う。



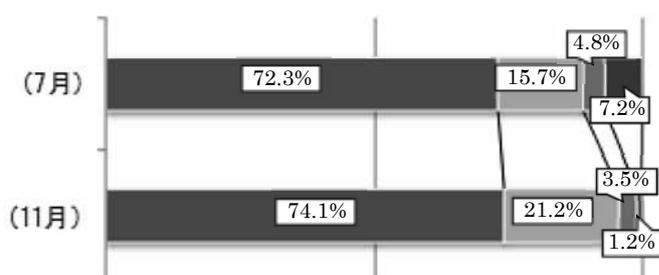
肯定的に回答した児童の割合が、7月は75.9%で11月は85.9%であった。7月はやや低い傾向であったが、11月には「自分にはよいところがある」と肯定的に捉える児童が10%増加した。

③ 将来の夢や目標をもっている。



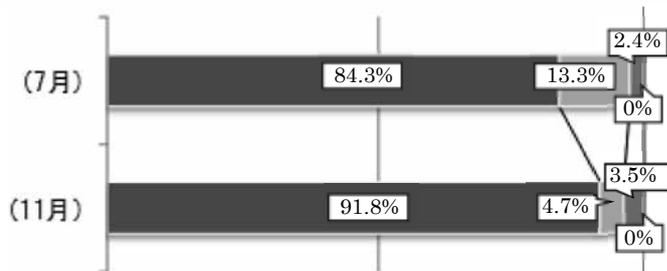
肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も90%以上で高い傾向がみられる。7月は94.0%で11月は94.1%となっており、肯定的に回答した割合が高いままで、ほとんど変化はみられなかった。

④ 人の気持ちが分かるようになりたいと思う。



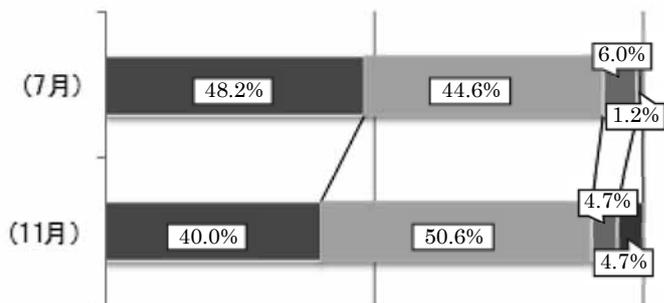
肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も85%以上で高い傾向がみられる。7月は88.0%で11月は95.3%となっており、「人の気持ちが分かるようになりたい」と肯定的に回答した児童が7.3%増加した。

⑤ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。



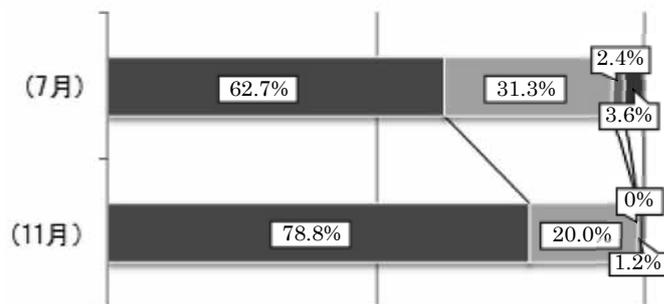
肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も95%以上で非常に高い傾向がみられる。
 肯定的な回答の割合に大きな変化は見られないが、「「そう思う」と一段と強い肯定感を示す児童が7.5%増加している。

⑥ 学校のきまりを守っている



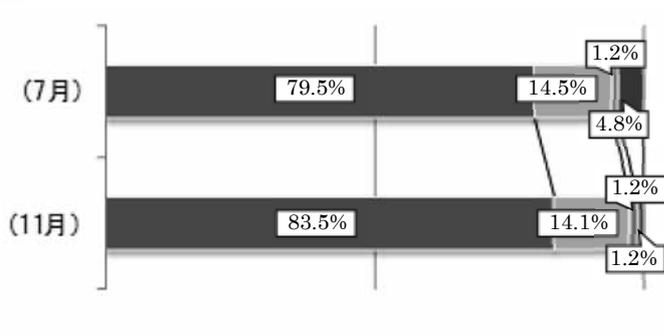
肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も90%以上で高い傾向がみられる。
 肯定的な回答の割合は、2.2%と僅かに減少しているが、「そう思う」と強い肯定感を示す児童が8.2%減少する結果となった。

⑦ 自分の住んでいる市や地いきのために、何かしたいと思う。



肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も90%以上で高い傾向がみられる。
 肯定的な回答の割合は、4.8%増加している。特に「そう思う」と強い肯定感を示す児童の割合が16.1%と大きく増加した。

⑧ 自分の住んでいる市や地いきが好きだ。

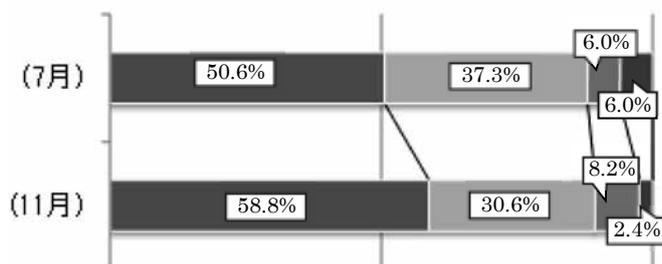


肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も90%以上で高い傾向がみられる。
 肯定的な回答の割合は、3.6%増加している。特に「そう思う」と強い肯定感を示す児童の割合が4%増加している。

(2) 「道徳科の授業アンケート」の比較（7月と11月に実施）

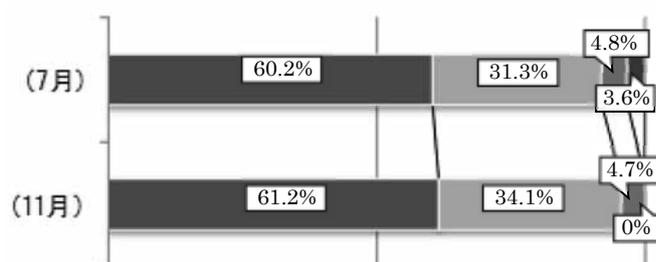
凡例： ■ そう思う □ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

① 道徳科の時間が好きだ。



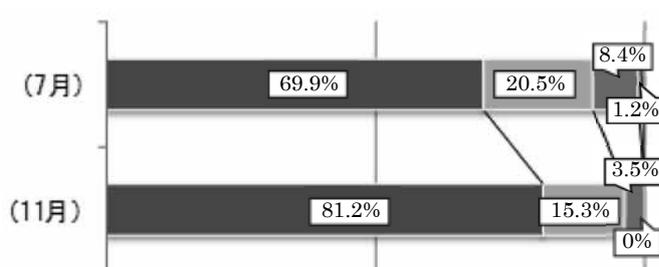
「そう思う」「だいたいそう思う」と回答（以下：肯定的に回答）した割合がどちらの月も85%以上で高い傾向がみられる。
より強い肯定感を示す児童の割合が8.2%増加し、「道徳科の授業が好き」と感じる方向へ推移している。

② 心に残っている道徳科の授業がある。



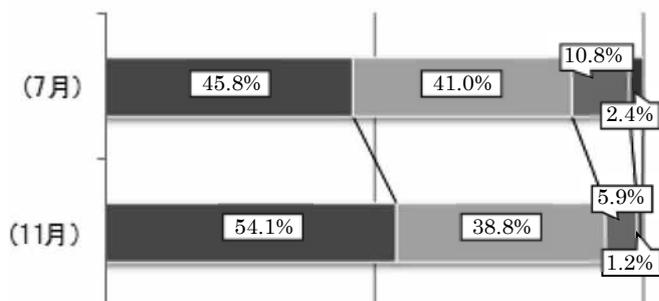
肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も90%以上で高い傾向がみられる。
「あまりそう思わない」「そう思わない」から肯定的な回答へと変容した児童の割合が3.7%で、「心に残る道徳科の授業がある」と答える児童が増加した。

③ 道徳科の学習は、役に立つと思う。



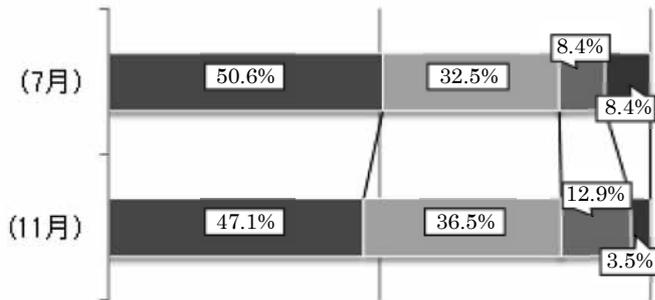
肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も90%以上で高い傾向がみられる。
「そう思う」とより強い肯定感を示す児童の割合が11.3%増え、「道徳科の学習が役に立つ」と感じる児童が大きく増加した。

④ 道徳科の授業で、自分のことについて考えている。



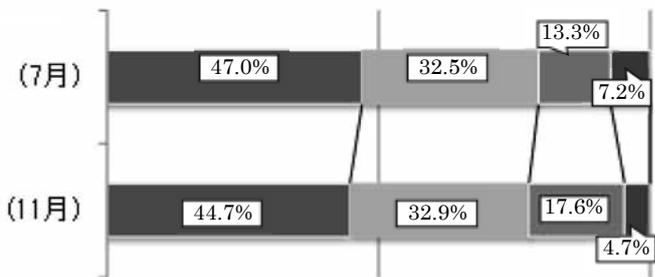
肯定的に回答した児童の割合が、どちらの月も85%以上で高い傾向がみられる。
「あまりそう思わない」「そう思わない」から肯定的な回答へと変容した児童が6.1%で「自分のことについて考えている」と感じる児童が増加した。

⑤ 道徳科の授業で考えたことを、学校の外でもその通りだと思ったことがある。



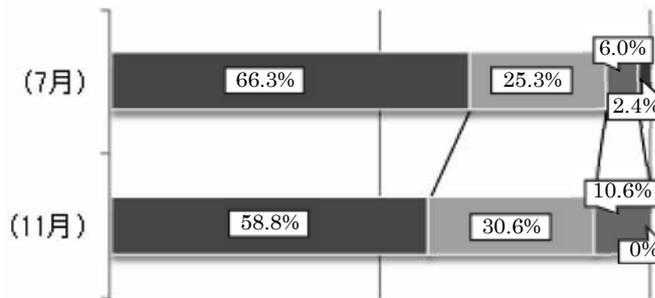
肯定的に感じている児童が、7月は83.1%、9月は83.6%であった。
 どちらの月も肯定的に感じている児童が80%以上ではあるが、他の質問項目ほど高い傾向は見られなかった。7月と11月の結果も大きな変化は見られなかった。

⑥ 道徳科の授業で、自分の考えを友だちに聞いてもらうのが好きだ。



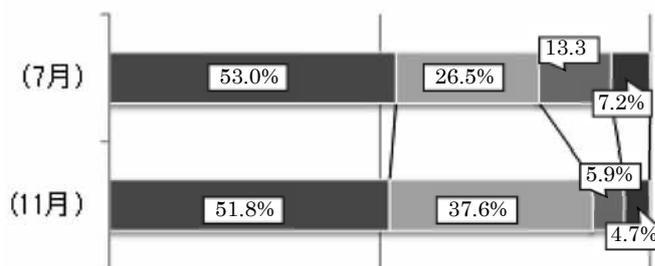
肯定的な回答を示した児童が、7月は79.5%で11月は77.6%であった。
 どちらの月も他の質問項目ほど高い傾向は見られなかった。7月に比べて11月が1.9%と僅かではあるが肯定的回答が減少する結果となった。

⑦ 道徳科の授業で、友だちの考えを聞くのが好きだ。



肯定的な回答を示した児童が、7月は91.6%で11月は89.4%であった。
 どちらの月も肯定的な回答をした児童が85%以上だったが、7月に比べて11月は肯定的回答が2.2%減少する結果となった。

⑧ 道徳科の授業で友だちの考えを聞いて、自分の考えが変わったことがある。



肯定的に回答した児童が、7月は79.5%で11月は89.4%であった。
 7月に比べて11月は、肯定的な回答をした児童が9.9%増加した。「道徳科の授業で友達のことを聞いて自分の考えが変わったことがある」と感じている児童が増加している。

(3) 授業後の研究協議会記録のまとめ

① 1 学年

<p>仮説1 学習活動の中で、児童に問題意識をもたせる「しかけ」を工夫することで、学習課題を捉え、自分との関わりで考えることができるのではないか。</p>	
<p>【しかけ1】 マラソンや係・当番の仕事などをする友達や自分の写真を見ることで、一人一人が頑張っていることがあると気付くことができるようにする。 参観者からの回答 とてもよい； 78. 0% よい ; 17. 0% おしい ; 2. 4% (無答2, 4%)</p>	<p>成果○ 課題▲ ○自己肯定感が高まった。自分の頑張りを自覚できた。 ○自分と友達の良さを認め合うことができた。 ○努力の大切さについて気付くことができた。 ○登場人物の出来事から、自分事として考えるよいきっかけとなっていた。 ▲頑張っている子どもたちの写真を板書に残したかった。 ▲自分や友達が何をどのように頑張ったのかに触れるとよかった。</p>
<p>【しかけ2】 板書は「カッコいい自分」を頂上にして道を描き、そこにたどり着くためにはどんなことをすればよいか視覚的に捉えることができるようにする。 とてもよい； 31. 7% よい ; 58. 5% おしい ; 4. 9% (無答2, 4%)</p>	<p>○構造化された板書だった。 ▲登場人物と子どもたちの道筋を比べられるようにすればよかった。 ▲面倒に感じる自分を下に置き、カッコいい自分を上にするるとよかったのでは。 ▲目指す姿や理由だけでなく、その過程（どんなことをすれば）について深く考えさせたかった。</p>
<p>仮説2 学習活動の中で、児童が自分との関わりで考えたことを基に、学び合う活動を工夫することで、多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることができるのではないか。</p>	
<p>【しかけ3】 自分と友達の考えを交流し合うことで、なりたい自分になるために、いまどんなことをすればいいのか考えを広げることができるようにする。 とてもよい； 46. 3% よい ; 46. 3% おしい ; 0. 0% (無答7, 3%)</p>	<p>○子どもたちの発表を生かしつつ、問い返すことで考えが深まった。 ○日常的な話題だったので話合いに広がりがあった。 ○授業者の声掛けや見取りが温かく、適切だった。 ▲大変だったことも考えさせてもよかった。 ▲ワークシートも板書同様に構造化するなどして工夫すればよかった。</p>
<p>【その他】 ○導入と終末の自己評価を比べることで、子どもたちにも変容を感じさせることができた。 ○導入での指導者の自己開示が、努力することを面倒に感じる自分を出しやすくするよいきっかけになっていた。 ○子どもたちがのびのびと発言しながら、学習規律は適切に守られていた。 ○ワークシートに理由をかけていない子に助言したことで、安心感をもたせていた。 ▲児童の発達段階を考えれば、教材文を読まない方法も検討してはどうか。</p>	

② 6 学年

<p>仮説1 学習活動の中で、児童に問題意識をもたせる「しかけ」を工夫することで、学習課題を捉え、自分との関わりで考えることができるのではないか。</p>	
<p>【しかけ1】 動物園の映像を見せることで、賑わっている様子に気付かせ、かつては廃園の危機だったことを知るにより、問題意識をもつことができるようにする。 参観者からの回答 とてもよい； 68. 8% よい ; 28. 1% おしい ; 3. 1%</p>	<p>成果○ 課題▲ ○映像とかつては廃園しそうだったという情報から問題意識がもてた。 ▲賑わっていたことを伝えるために、映像に来園者も入っていたほうがよかった。 ▲廃園の危機よりも動物園のよさが伝わっていた。</p>
<p>【しかけ2】 問い返し発問をすることで、自分の経験と照らし合わせながら考えさせる。教科書に書いていない登場人物の心情や行動を支える思い、道徳的価値について考えられるようにする。 とてもよい； 34. 4% よい ; 53. 1% おしい ; 9. 4% (無答3. 1%)</p>	<p>○授業者の発問の引き出しが多く、問い返しが適切に行われていた。 ▲初心を貫いた小菅さんの思いへの問い返しがあればよかった。 ▲「やり方をかえたほうがよかったのでは」の発問の意図が分かりづらかった。 ▲子どもと授業者とのやり取りが多く、求めている答えにたどり着けずにいた。</p>
<p>【しかけ3】 自分の生活と比較して考えることで、努力していること、うまくいった経験やうまくいかなかった経験を振り返って、自分事として考えられるようにする。 とてもよい； 28. 1% よい ; 62. 5% おしい ; 9. 4%</p>	<p>○自分事として捉え、経験を振り返ることができた。 ▲写真の見せ方（タイミング、言葉がけ）を工夫したかった。</p>
<p>仮説2 学習活動の中で、児童が自分との関わりで考えたことを基に、学び合う活動を工夫することで、多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることができるのではないか。</p>	
<p>【しかけ4】 自分と友達の考えを交流し合うことで、理想に向かって努力する大切さについて考えを広げたり深めたりする。 とてもよい； 31. 3% よい ; 56. 3% おしい ; 6. 2% (無答； 6. 2%)</p>	<p>○自分の思いを伝えよう、友達の考えを聞こうとする姿勢がみられた。考えも深まっていた。 ▲交流する時間が短かった。 ▲子どもたち同士で交流する場面をもっと見たかった。 ▲交流して「深まった」とはどんな状態なのか明確にしておくべき。</p>
<p>【その他】 ○板書がよく整理されている。チョークの色が工夫され、思考の流れが見える。 ▲本時でねらう価値と中心発問にずれがあったのではないか。 ▲学習課題をどう設定するか、評価の観点はどうあればよいか検討する必要があるのでは。</p>	

(4) 道徳教育の抜本的改善・充実に係る成果の概要

ア 「道徳意識調査」「道徳科の授業アンケート」の結果から

「道徳意識調査」で7月と11月に共通して肯定的に回答した児童が多かった（90%以上）項目は、「将来の夢や目標をもっている」「学校のきまりを守っている」「自分の住んでいる市や地域が好きだ」であった。またこの調査で7月と比較して11月に肯定的に回答した児童の割合が増えた（5%以上）項目は、「自分にはよいところがあると思う」「人の気持ちがわかるようになりたいと思う」であった。

「道徳科の授業アンケート」では、「心に残っている道徳科の授業がある」と「道徳科の学習するのは役に立つと思う」が7月と11月に共通して肯定的に回答した児童の割合が高かった。（90%以上）「道徳科の授業で友達の考えを聞いて自分の考えが変わったことがある」が7月から11月にかけて肯定的に回答した児童の割合が顕著に増加した。（9.9%）またこの調査で「そう思う」と「だいたいそう思う」を合わせた結果はあまり変わらなくても、「そう思う」とより強い肯定感を示す割合が増加した項目は、「道徳科の時間が好きだ」「道徳科の学習は役に立つと思う」である。さらに、「道徳科の授業で自分のことについて考えている」については、「そう思わない」「あまりそう思わない」から肯定的な結果へ変容した児童（6.1%）がみられた。

これらの結果から、短い期間ではあるが、本校で道徳の研究に取り組んで聞いた成果があったことが明らかとなった。「自分にはよいところがあると思う」や「人の気持ちがわかるようになりたいと思う」、「道徳科の授業で友達の考えを聞いて自分の考えが変わったことがある」と回答した児童が増えたことが具体的な成果として表れた。今後の課題として、学校全体で保護者も巻き込んで道徳教育についての理解を深めたり、児童が道徳科で考えた価値理解を家庭にも伝えたりして共有し、学校と家庭双方で児童の道徳性を育てていく必要がある。

イ 授業後の研究協議会記録のまとめから（研究仮設の検証）

仮説1 児童に問題意識をもたせる「しかけ」の工夫

授業の導入で写真や動画を提示することは、自分事として考えるためのきっかけとして有効だった。これは、児童が教材に出会う前に学習課題を捉えるための問題意識をもたせることができた故と考えられる。

また、発問や問い返しを適切に行うことは、児童が自分との関わりで考えるために有効だった。これは、指導案に想定した問い返しを学習場面でそのとおりに行うものではなく、児童の発言や思考の流れに合わせて行う必要がある。

さらに、構造的な板書を工夫することは、今後さらに改善の余地はあるものの、児童の思考の流れが見やすくなることによって、児童自身にも思考の深まりを実感させる手立てになることが分かった。

仮説2 多面的・多角的に考え、考えを深めるための学び合う活動の工夫

発問や問い返しを適切に行うことは、友達の考えと比べながら考えたり、立場や考え方の違いを踏まえて考えたりするために有効だったといえる。ただし、発問や問い返しを熟慮するだけでなく、日常の学級経営や授業で児童が伸び伸びと発言したり、友達の発表をしっかりと聞いたりするための指導が学級に浸透していることも重要な要因である。

今後の課題として、学び合う活動を取り入れる際に、児童に話し合う必要感をもたせることが重要であることや、発達段階に沿って教師対児童だけでなく児童対児童の交流を取り入れていく必要があることが上げられる。

(資料1)

道徳公開 小中全体計画 (方針) 20190520

第三中学校実施計画

- 概要
 - 思いやりと適切な判断力を身に付けた生徒の育成を目指した道徳教育
 - H30の取り組み
 - ・特別の教科「道徳」について、目標・指導の在り方、学習内容、授業時間の進め方について全職員で共通理解
 - ・「考え、議論する道徳」の教材や指導法の研修
- 道徳教育の技術的改善・充実を図るために2年間(R1~2)の校内研修
 - (1) 多面的・多角的に考えることができる教材、「考え、議論する道徳」授業展開や指導法の工夫 → 1年目の研究の重点
 - (2) 「道徳科」の授業の定着と発展を目指した全体計画及び年間指導計画の改善と活用 → 1年目の研究の重点・2年目の研究の重点
 - (3) 道徳科の「大きくくりなまとまりを踏まえた評価」の視点による学習評価の在り方の研究 → 2年目の研究の重点
- 研究内容
 - ◇研究主題◇ 思いやりと道徳的な判断力を高めるための指導の研究
 - ～道徳的価値について、考え議論する特別の教科道徳の授業実践を通して～
 - ◇研究目標◇ 生徒の思いやりと道徳的な判断力を高めるために、問題解決的な道徳を意識した指導の方法を実践を通して明らかにする。
 - ◇研究の方法◇
 - ・自分だったらどうするか、人として何かできることはないか等を考えさせる問題解決的な道徳を取り入れた授業を実践する。
 - ・問題をよりよく解決に導くために、生徒が他者と話し合いたいと感じる発問の工夫及び教材の精選を行い、より真剣に考えさせる活動につながる。
 - ・道徳教育及び道徳の授業で培った道徳性及び問題解決的な指導方法をもとに、各教科で授業実践を行うことで、基礎的・基本的な内容の定着につながる。

●生徒の実態

新学習指導要領

- 【 第三中学校・ 】
- ◇9年間を通して育てたい道徳教育
他者とよりよく生きるための自立をめざし、自分で判断し、行動できる人
- 道徳で自分を成長させてくれる心を育てよう
- ◇9年間で育てたい重点項目
小： 認め合い、助け合って活動し、志を持って取り組もうとする子
A(5)希望と勇氣、努力と強い意志
- 中： 自己の向上を目指し、何事にも粘り強く取り組む強い意志を持つ生
A(5)希望と勇氣、克己と強い意志
- ◇各学年の目標
小学校
低：自分でやるべき勉強や仕事をしっかりと行う。
中：自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志を持ち、粘り強くやり抜く。
高：より高い目標を立て、希望と勇氣を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く。
中学校
より高い目標を設置し、その達成を目指し、希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。
1年：自らの可能性を信じ、目標や理想に向かって、あきらめずに最後までやり遂げようとする実践意欲を培う。
2年：より高い目標を目指し、着実にやり抜く強い意志を持つ。
3年：自分が決めた目標を目指し、自分を見つめ、自己の向上を図る。
- ◇児童生徒の視点による連携◇
中学生は小学生の手本になる
小学生は中学生から学ぶ
- ◇小中連携による具体的道徳教育の場面◇
・運動会・中体連壮行式・中学校授業見学(6年)
・部活動体験

保護者、地域の願い

おおぞら小実施計画

- 概要
 - (1) 道徳教育・主体的な判断をする個・他者とのかわりの中で道徳性を養う・全教育活動を通して意図的計画的に仕組む。
 - (2) 道徳科・個々が課題と向き合い考え議論する授業・指導過程、多様な指導方法を工夫
 - (3) 重点項目について各教科・領域等との関連付けを明確にし、横断的全体計画等の整備
- 研究内容
 - (1) 小中連携、通期の教育資源の活用を含めた教科、領域間の横断的な計画の整備
 - (2) 考え、議論する授業のために「学び合いの場面」の設定
 - (3) 「道徳ノート」の蓄積、活用により変容を把握し評価を工夫。
- 検証方法
 - (1) 児童の変容の把握
 - (2) 児童の意識調査
 - (3) 学校関係者へのアンケート
 - (4) 客観的諸検査による児童の道徳性の変容分析
- 道徳教育の目標
道徳的な判断力、心情、実践意欲の育成
- 重点項目
 - (1) 認め合い助け合って活動し、志を持って取り組もうとする子(希望と勇氣、努力と強い意志)
 - (2) 郷土の伝統や文化を大切にし、進んで地域社会とかわらわらうとする子(伝統文化の尊重、国や国土を愛する態度)
- 研究主題
主体的に考え、学び合う子どもの育成
～心を動かし、気付きを大切にすることによる道徳教育の推進～
- 道徳科の授業の学び
心を動かす→価値の理解、自己を見つめ直す・気付き→多角的、多面的にとらえる・深い学び→人間としての生き方について考えを深める
- 学びのイメージ
教材との出会い(自分を知る)教師によるしかけA(体験・対話・議論・問い返し、ゆさぶり)・価値理解しかけB(価値と自分とを関連付けた振り返り)・自己の生き方(自己の変容の自覚)
- 指導過程 導入：自分を知る 展開：課題に対する自我関与
終末：一般化による価値理解と振り返りによる変容の自覚

●児童の実態
重点項目(1)に関して、比較的希望ましい傾向を示す児童は全体の30%程度

(資料 2)

特別の教科 道徳 全体計画



重点項目

(2) 郷土の伝統や文化を大切にし、進んで地域社会と関わろうとする子
(伝統と文化の尊重, 国や国土を愛する態度)

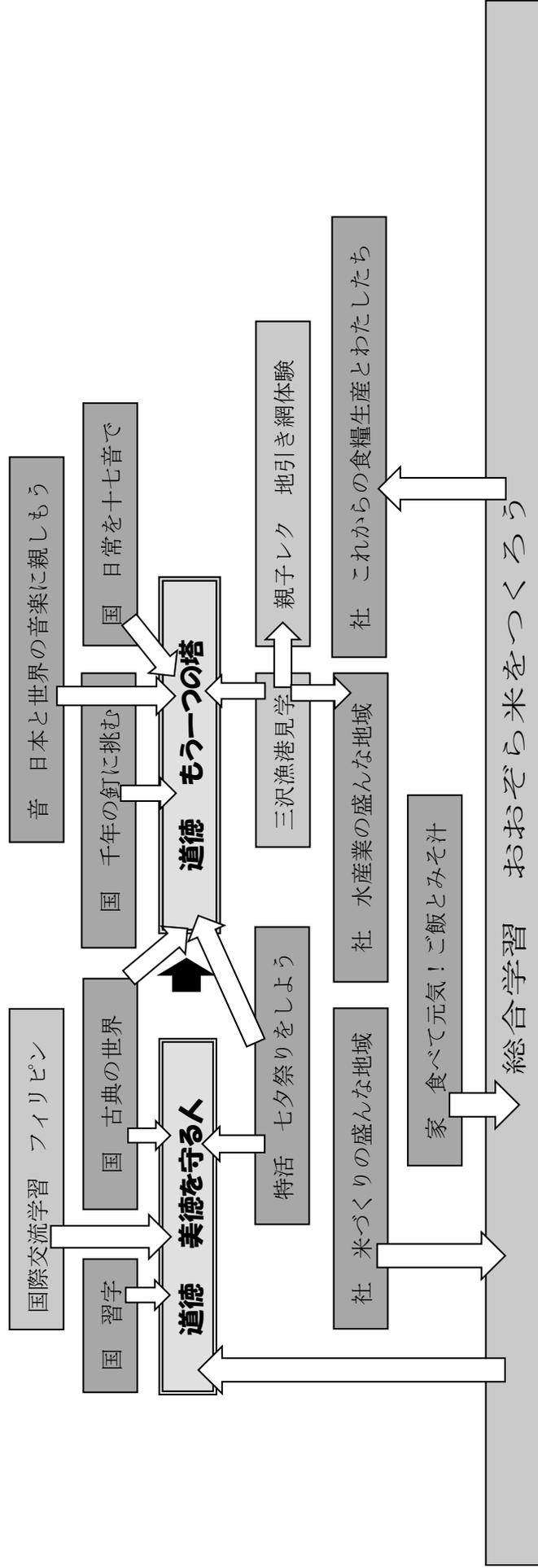
5 学年 内容項目 我が国や郷土の芸能と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと

「美徳を守る人」 日本人のあり方

ねらい：先人たちが大切にしてきた美徳に気づき、その素晴らしさについて理解を深める中で、日本人に受け継がれている精神的価値を生活の中に生かしていくこととする態度を養う。

「もう一つの塔」 我が国の文化を愛する心

ねらい：日本に伝わる伝統や文化、それを守る人とする人の生き方を通して、我が国や郷土の伝統や文化を受け継ぎ、大切にしようとする心情を育てる。



(資料4)

主体的に考え、学び合う子どもの育成
一人一人に分かる喜び、学ぶ楽しさを実感させる授業づくりを通して

主体的に考え、学び合う子どもの育成
一人一人の心の動き、気づきを大切にす
る道徳教育の推進

①課題把握 8分 問題提示の工夫

問いを持つ 関心を持つ 意欲を持つ

導入①場面状況・登場人物の背景、立場等の把握 8分

しかけ 問題・資料提示の工夫
教材との出会わせ方

問題意識を持つ 現在の自分について自覚する

②自力解決 8分 主体的な学び

解決の見通しを持つ

②課題解決 8分 自由な思考で考える

自分の立場を明確にする
登場人物の判断や心情を類推する

③話し合い 16分 対話的な学び

個→ペア・グループ・全体→個
考えを認め合う・広げる・深める話し合いをする

③話し合い 16分 中心発問

多面的・多角的な見方 自我関与

動作化・役割演技・対話（議論）・実物提示
テーマ型発問・モラルジレンマ・説話
ICT活用等

④まとめる 4分

学んだこと分かったことをまとめる

終末④価値理解 4分 自分との関係でとらえる

一般化 自己の生き方を見つめ直す

⑤振り返る 4分

学んだ過程を振り返る 変容を自覚する

⑤振り返る 9分

学んだ過程を振り返る 変容を自覚する
道徳ノート（ワークシート）

⑥適用問題 5分

よりよい考え方で問題を解く

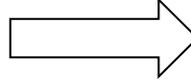
考えが（気持ち）分かってよかった
考えが（気持ち）分かってもらえてよかった
学んで（考えて）よかった

展開

しかけ 解法の見通しを持たせる
価値へ方向付け
ねらいの明確化
発問の工夫

しかけ 体験的な学習 思考の視覚化
焦点化するための問い返し・ゆさぶり
解決策の検討

しかけ 体験的な学習 思考の視覚化
焦点化する問い返し・ゆさぶり



第1学年 道徳科学習指導案

日時 令和元年 9月25日 3校時
対象 1年1組 男子6名 女子10名
指導者 教諭 牧 美 都 子

1 主題名 一つずつやってみよう A-(5) 希望と勇氣、努力と強い意志

2 教材名 「みらいにむかって」(学研 みんなの道徳 1年)

3 主題について

(1) ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編における「A 主として自分自身に關すること(5)自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。」と関連が深い内容である。
1、2年生の段階においては、何事も好奇心を持って行い、やらなければならぬことを素直に受け入れることが多いと言われる。しかし、興味・関心のあることについては、意欲的に取り組むものの、好き嫌いで物事を判断し、つらいことや苦しいことがあるとくじけてしまう傾向がある。この時期のやらなければならないことには、家族や教師から言われたことが多いが、やるべき事をしっかりと行うことは、自分自身を高めていく上で大切であり、児童が主体的に取り組んでいくようにする必要がある。

そこで、自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うことの意義を自覚させ、家族や教師の励ましや賞賛、適切な助言などの下に、それをできるようにすること、やり遂げたときの喜びや充実感を味わい、努力した自分に気付くことができるようにすることが大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童について

本時の授業に当たって関連する意識調査の結果は、以下のとおりである。(6月28日実施質問紙法)

本時に関わる意識調査の結果(人)

	とても思う 思う	だいたい 思う	あまり 思わない	そう 思わない
1 頑張ってるよって、うれしかったことがある。	11	3	0	2
2 自分には、よいところがあると思う。	11	1	2	2
3 頑張りたいことや、目標がある。	14	1	0	1
4 道徳の時間が好きだ。	9	2	1	4
5 道徳の時間に考えた事を、役に立つと思う。	9	3	4	0
6 通りたいと思ったことがある。	9	1	0	6

設問1～3は、自分自身に關することで、結果からは、頑張ってるよってよかったことも、これから頑張りたいことや目標もあり自己肯定感も高い児童が多い一方、頑張ってるよって嬉しかったことがあっても自己肯定感をあまり持っていない児童がいることも分かった。何かしらの達成感はあるけれども、それは、他者からの賞賛(時にご褒美つき)であり、自分の頑張りを自分で認めることや自分自身の成長を喜ぶことまでには至っていないと推測できる。

設問4～6は、道徳の時間に関するところで、結果からは、1年生の現段階では、道徳の意義や大切さは、まだよくわからず、登場人物の行動から自分自身のことを考えたり発表したりするのは難しいと思う児童の様子が分かる。さらに設問6からは、道徳は、学校だけのものではなく、自分の生活とは別の物であり、自分事として捉えられない児童が意外にも分かった。

(3) 教材について

本教材は、プロテニスプレーヤーの錦織圭選手が、幼少期に父親に貰ったいろいろなチャンスをから自分が頑張りたいことを見つけ、今も世界一を夢見て挑戦を続けているという内容である。児童は、幼少期の錦織選手と自分自身を重ね合わせ、なりたいたい自分のために日常的に行っている手伝いや、係・当番の仕事、習い事など、面倒でも一つ一つ頑張ることが大切だと考えることができると。

本時では、より自分事として捉えられるように、児童一人一人の日常の様子を写真で提示し、特別なことでなくとも、掃除やマラソンなど、当たり前で頑張っていることや続けていることは一人一人にあり、それが素晴らしいことだと意識することや、なりたいたい自分になるために、今やらなければならないことをしっかりと頑張ることの大切さに気付かせていきたい。

事後は、本時の内容を学級便りにして保護者に知らせ、児童が家庭でも認められることで、より一層の頑張る気持ちや自己肯定感を感じられるようにしたい。

(4) 教材分析

ねらい：なりたいたい自分について考えることを通して、今自分がやらなければならないことについてしっかりと取り組もうとする態度を養う。

授業の意図：錦織圭選手が夢に向かって一つ一つ頑張っている姿から、身の回りの友達や自分自身に目を向け、なりたいたい自分になるために、今やらなければならないことをしっかりと頑張ることの大切さに気付くことができるようにする。

〈場面〉幼少期に、錦織選手は活躍するチャンスをたくさんもらった。その中から好きなテニスを遊び、たいへんなこともあったががんばって、全国大会で優勝した。

〈意図〉もらったチャンスをがんばったことが全国大会優勝につながったことに気付くことで、他者理解、人間理解につながる。

〈発問〉けいくんは、なぜかっこいいのかな。

〔他者理解〕

〔人間理解〕

錦織選手が今一つ一つ頑張っているということを知ること、友達や自分自身も実は日々頑張っていることに気付く、他者理解を通して、価値理解へとつなげる。

〔他者理解〕

〈場面〉世界一を夢見て今も一つ一つ頑張っている錦織選手。

〈意図〉身の回りにもいろいろなことを頑張っている友達や自分がいることに気付く、自分はこのからどうすればよいかと考えることで、価値理解へとつなげる。

〈中心発問〉もつとかっこいい自分になるために、今どんなことをすればいいのかな。

〔価値理解〕

(5) 関連する内容項目

C 主として集団や社会との関わりに関すること (1.3) 家族愛、家庭生活の充実

4 研究仮説との関連

研究仮説1

学習指導の中で、児童に問題意識をもたせる「しかけ」を工夫することで、学習課題を捉え自分の関わりで考えることができるのではないだろうか。

研究仮説2

学習指導の中で、児童が自分との関わりで考えたことを基に学び合う活動を工夫することで、多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることができるのではないか。

研究仮説1『児童に問題意識をもたせる「しかけ」の工夫』

【しかけ1】

マラソンや係・当番の仕事などをすすめる友達や自分の写真を見ることで、一人一人が頑張っていることがあると気付くことができるようにする。

【しかけ2】

板書は「かっこいい自分」を頂上にして道を描き、そこにたどり着くためにはどんなことをすればよいか視覚的に捉えることができるようにする。

研究仮説2 「学び合う活動の工夫」

【しかけ3】

自分と友達を考えを交流し合うことで、なりたいたい自分になるために、今どんなことをすればいいのか考えを広げることができるようにする。

5 本時について

(1) ねらい

なりたいたい自分について考えることを通して、今自分がやらなければならないことにしっかりと取り組みようとする態度を養う。

(2) 展開

過程	学習活動	【しかけ (研究仮説との関わり)】 ☆評価 (方法) ※留意点
導入	○発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応 1 毎日やらなければならないことについて話し合う。 ○やらなければならないことでもめんどろだな、嫌だなと思うことはありませんか。 ・よくある ・ときどきある ・ない ○なぜそう思うのかな。 ・やらないとおこられるから。 ・マラソン大会で1位を取りたいから。 ・楽しいから。 ・ほめられると嬉しいから。	※宿題やマラソン、仕事など、児童に発表させる。 ※ワークシートのは当てはまるところを囲ませる。 ※数名の児童に理由を発表させる。
展開	2 「みらいにむかって」を聞いて、内容を確認し、学習課題をたてる。 ・テニスが一番好きだった。 ・たいへんなこともあった。 ・六年生の時に優勝した。 ・世界一を夢見て、一つ一つ頑張っている。 学習課題 けいくんは、なぜかっこいいのかな。	※写真や絵を使って、紙芝居風に読み聞かせる。 ※写真や吹き出しで語の内容を見やすく整理する。 ※けいくんのことをどう思ったか聞き、学習課題を立てる。
閉	3 マラソンや係・当番を頑張っている友達や自分の写真を見て考える。 ○すこいのは、けいくんだけかな。自分達のことはどう思いますか。 ・かっこいいと思う。 ・頑張っていると思う。	【しかけ1】 マラソンや係・当番の仕事などをすすめる友達や自分の写真を見ることで、一人一人が頑張っていることがあると気付くことができるようにする。 ※あきらめない気持ちよりがんばった行動に目を向けさせる。

<p>4 自分自身のことについて考える。</p> <p>◎みなさんは、もっとかっこいい自分になるために、今どんなことをすればいいと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日お手伝いをしたら、おうちの人を助けられる。 ・毎日運動したら、体が強くなる。 ・毎日勉強したら、頭がよくなる。 ・もっとマラソンを頑張ったら、マラソン大会で1位をとれる。 ・係の仕事を頑張ったら、みんなの役に立てる。 ・頑張るとかっこいいとわかったから、縄跳びの練習を続ける。 ・かっこいい人になりたいから、掃除を頑張る。 	<p>【しかけ2】</p> <p>板書は「かっこいい自分」を頂上にして道を描き、そこにたどり着くためにどんなことをすればよいか親覚的に捉えることができるようにする。</p> <p>※ワークシートに書き込ませ、発表させる。</p> <p>【しかけ3】</p> <p>自分と友達のを交流し合うことで、なりたいたい自分になるために、今どんなことをすればいいのかが考えを広げることができるようにする。</p> <p>※はじめの気持ちと比較させることで考えを深められるようにする。</p>
<p>5 学習の振り返りをする。</p> <p>○今日の学習で、どんなことがわかりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面倒くさいことでも毎日ががんばることが大切だと分かった。 ・自分も頑張っていることがあった。 	<p>※数名指名し、考えを発表させる。</p> <p>☆ なりたい自分になるために今やるべきことについて考えることができたか。(発表・ワークシート)</p>

(3) 板書計画

もっとかっこいいじぶん

- ・係の仕事をがんばる。
- ・毎日勉強する。
- ・毎日お手伝いをする。
- ・毎日運動する。
- ・もっとマラソンをがんばる。

けいくんは、なぜかっこいいのかな。

- ・練習を頑張っている。
- ・たいへんなことがあっても、頑張っている。

写真

けいくんの

- ・テニスが一番好きだった。
- ・一週間に四回テニスクールに通った。

写真

綿織選手の

- ・アメリカでも練習した。
- ・たいへんなこともあった。
- ・六年生の時に優勝した。
- ・世界一を夢見て、一つ頑張っている。

みらいにむかって

第6学年 道徳科学習指導案

日時 令和元年 9月25日 4校時
 対象 6年1組 男子6名 女子11名
 授業者 教諭 池田 宏二郎

- 1 主題名 困難に打ちかつ心 A-(5) 希望と勇氣、努力と強い意志
- 2 教材名 「市民に愛される動物園を目指して」(学研 みんなの道徳 6年)
- 3 主題について
 (1) ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編における「A 主として自分自身に関すること(5)より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」と関連のある教材である。

第5・6学年の段階になると、児童が一人の人間として自立して生きていくためには、常に自身を高めたいこうとする意欲をもつことが大切になってくる。困難や苦勞に直面しても、自分の目標を達成するために粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力が必要である。忍耐力を増すためには、自分に適した目標を設定し、見通しをもってよりよい自己を現実させようとする向上心と結びつき、前向きな自己の生き方を自覚していくことが大切である。6年生の児童は、それぞれに高い理想を追い求める時期と言われる一方で、自分自身に自信がもてなかつたり、思うように結果が出なくて落ち込んだりすることもあり、中学校生活に対しての不安が積もりやすくなる。

そこで、苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜き、失敗を重ねながらも夢を実現した人に触れ、希望をもつことの大切さや、希望があるが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えることは大切である。その上で、自分の歩んできた道を信じて努力することが、少しずつであっても希望の実現につながっていくことに気が付くようにすることで、中1ギャップを乗り越えていく一助になると考える。

(2) 児童について

本学級は男子6名、女子11名、計17名の学級である。本時の授業に当たって関連する意識調査の結果は、以下のとおりである。(7月2日実施 質問紙法)

本時に関わる意識調査の結果(人)

4:とても思う	3:少し思う	2:あまりそう思わない	1:まったくそう思わない
とでも そう思う	少 そう思う	あ まりそ う思 わな い	ま た く そ う 思 わ な い
10	6	1	0

- 1 道徳の学習は楽しい。
- ・人の意見を聞き自分の考えも広がるから。
 - ・話の内容によって感想を書くのが楽しいし、友達の見解と自分の見解を比べるのも好きだから。
 - ・みんながどう考えているか知れるし、自分の考えを発表できるから。
 - ・友達のことを聞いて、自分もそう思ったり、共感したりできるから。

- ・正解はないしみんなと多く話せるから。
- ・自分の考えを話すのが苦手だから。

2 道徳は自分のためになっている。	16	1	0	0
-------------------	----	---	---	---

- ・社会で起こっていることや人の気持ちについて考えることができるから。
- ・その人が何をしたいのか聞き、考えることで、自分も大人になったらこういうことを守らなきゃと思うから。
- ・自分が社会に出たときに大切なことを知れるから。
- ・道徳の勉強をしてから考えが変わったり、人にやさしくできたり、命を大切にしようと思うことがあるから。

3 夢や希望を達成するために大切なことは何だと思えますか。(自由記述)

- ・努力 ・すぐにあきらめないこと ・いやなことがあるてもにげない ・気合い ・やる気
- ・最後までやり遂げる ・人のアドバイスを聞く

4 努力したり、目標に向かって頑張ったりしたのに、上手くいかないことがあった。	4	9	3	1
---	---	---	---	---

- 同業などで、練習して上手くできたから。
- いっぱい努力したから。
- ▲試合に向けて頑張って苦手なことを練習したのに、結果が残せなかった。
- ▲マラソンを今まで以上に頑張ったけど、越されてしまった。
- ▲マラソンで、休み時間に走ってもタイムが縮まらないから。
- ▲漢字の練習を頑張っていたけど、テストで良い点が取れなかった。
- ▲サッカーの試合で勝とうという目標に向かって頑張ったのに上手くいかなかったから。
- ▲縄跳びの技などを何度も練習しているけど、できるようにならなかった。いくら勉強してもあまりリテートの点数が上がらないこと。

5 上手くいかないことがあると、すぐに諦めてしまおう方だ。	0	5	7	5
-------------------------------	---	---	---	---

少しそう思う

- ・一つのことになり、頑張るけど最後の最後まであきらめてしまうから。
- ・何回も何回もやっても無理だと思ってしまうけど少しは諦めずにやっている。
- ・上手くいかななくて落ち込み、自分にはできないと思ってしまうことが多いから。

あまりそう思わない

- ・怒られても、なぜ怒られたか考え、それにもうけて頑張れるから。
- ・努力すればやがて良い結果がでると思うから。
- ・上手くいかなないことがあっても、次頑張ろうと思えるから。
- ・今できなくても一生懸命やっていたら大体のことはできると思うから。

思わない

- ・間違ったことをしてもその間違いを直して頑張ることができているから。
- ・あきらめたらそこで終わりでいいから、あきらめずに練習をする。
- ・勉強で分らないことがあっても粘り強く考えるから。
- ・目の前にある壁を破ってからの本番だから。

〈道徳の学習に関すること〉

【設問 1・2】

この結果から、ほとんどの児童が、道徳の学習に対して前向きな気持ちで臨んでいることが分かった。理由として、自分の考えと他人の考えを比較する楽しさや、それにより自分の考えが広がる楽しさを挙げる児童が多かった。また、社会に出た時の自分を想像しながら、その時に何が必要なのか考えながら学習に臨んでいる児童もいることが分かった。

〈本時の内容項目に関すること〉

【設問 3】

この結果から、夢の実現や目標の達成のためには努力や最後まで諦めないことが大切なことを、多くの児童が理解していることが分かる。日常生活や、道徳の同じ価値に関する学習などから、頭では理解できているということが分かった。

【設問 4】

この結果から、児童は何かしらの形で自分の努力が成果として表れない経験があることが分かる。その内容としては、部活動のこと、学校生活のことがほとんどであった。児童の日常生活の中でも、頑張っていることに対して、上手くいったこと、いかなかったことを実感する場面が多数あり、それを本人も感じている。また、上手くいかないことの方が前面に出る児童が多かったことから、成功体験よりも失敗体験の方が印象深く児童の中に残っていることが推測される。

【設問 5】

この結果から、自分は上手くいかなくても諦めない方だと感じている児童が多いことが分かった。設問2であったように、諦めないことが大切だと理解し、それを自分なりに行動に移している児童が多いということが分かる。一方では、諦めてしまうという意見があることも分かり、正直な意見といえる。

(3) 教材について

本教材は、来場者数の減少に伴った廃園の危機を乗り越えて、日本有数の来園者数を誇るようになつた旭山動物園の取組について話し合う活動を通して、くじけずに頑張ることの大切さについて迫るものである。多いときには年間300万人以上の来園者数がある、北海道旭川市の動物園で、成功に至るまでには幾度となく廃園の危機があつたものの、その都度開園当初から大切にしてきたことを貫いて困難を越えてきた。本質を大切にしながら園長の小菅さんの考え方から、希望と勇気に関して多くのことを学ぶことができる教材である。また、廃園の危機が迫っている中でも、自分の信じたいことをやり通す大切さや諦めずに継続する大切さ、結果に表れるかわからなくても努力を続ける大切さなど、本学級の児童にとって学ぶべきことが多く含まれている教材といえる。

意識調査の結果から、自分の努力が結果となつて表れない経験をしている児童がいることを踏まえて、本時では小菅さんの考え方に触れながら自分の努力について考えさせたい。希望や理想を持つことはもちろん、それに向けて努力を続けること、目の前の結果に左右されず努力を続けることができると素直に話し合いながら明らかにしていく。そして、学級内でも目標を持ち、それに向けて努力をしている児童がいるという認識を共有し、価値づけることで、今後も理想に向かって努力していこうとする児童を育てたい。

(4) 教材分析

ね ら い：登場人物の行動や気持ちを話し合う活動を通して、くじけず希望に向かって取り組む大切さ、希望に向かって努力する姿勢は無駄にならないということに気付かせ、理想に向かって努力していかうとする実践意欲を育てる。

授業の意図：廃園の危機が迫り失敗が許されない中でも、希望を捨てずに信じたことを取り組み続ける登場人物の姿から、たとえ成果が表れなくてもやっってきた努力は無駄ではないことに気付かせたい。

他者理解

〈場面〉人が長続きしない中、動物園の魅力を伝えるためのガイドを始めると、動物園のスタッフが、お客さんに寄り沿う気持ちで取り組んでいたことに気付かせたい。

〈意図〉動物園のスタッフは、どんな思いでガイドを始めたのだろうか、その思いに気付かせたい。

〈発問〉動物園の人たちは、どんな思いでガイドを始めたのだろうか。

〈場面〉廃園の危機にさらされながらも、自分が信じた道、動物園ガイドを再開し、困難を乗り越えた。

〈意図〉困難にくじけなかった小菅さんを支えたものは何だったのか、その思いに気付かせたい。

〈発問〉小菅さんが、何度も困難を乗り越えることができたのはなぜだろう。

人間理解

動物たちのことを思っていたスタッフの人達も、廃園の危機を脱するために様々なことを考えていたことをとらえさせる。その中でも小菅さんは、自分の理想に向けて自分の信じたことを貫いたことに触れ、価値理解へとつなげる。

他者理解

〈場面〉自分たちのやってきたことに間違いはないと信じ、理想の動物園について語り合い、アイデアを14枚のスケッチに描いたり、開園当初から取り組んでいたガイドを再開したりして、理想の動物園作りのために力を尽くした。

〈意図〉困難にさらされる中でも、自分たちの理想をもち自分が信じたことに取り組んだという努力する姿勢が、たとえ成果が出なかったとしても理想に向かっていく上で無駄ではないことに気付かせたい。

〈中心発問〉結果が出なかったり、上手くいかなかったりした時、それまでの努力をどう思いますか。

(5) 関連する内容項目

- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること (19) 生命の尊さ
- C 主として集団や社会との関わりに関すること (14) 勤労、公共の精神

4 研究仮説との関連

研究仮説 1

学習指導の中で、児童に問題意識をもたせる「しかけ」を工夫することで、学習課題を捉え自分との関わりで考えることができるのではないだろうか。

研究仮説 2

学習指導の中で、児童が自分との関わりで考えたことを基に学び合う活動を工夫することで、多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることができるのではないか。

研究仮説 1 『児童に問題意識をもたせる「しかけ」の工夫』

【しかけ 1】

旭山動物園の映像を見せることで、賑わっている動物園の様子に気付かせたい。その動物園がかつては廃園の危機にさらされていたことを知ることに、「なぜこんなに賑わうようになったのか」という問題意識をもつことができるようにする。

【しかけ 2】

問い返し発問をすることで、自分の経験と照らし合わせながら考えさせる。教科書に書いてあることでなく、教科書に書いていない登場人物の心情や行動を支える思い、道徳的価値について考えられるようにする。

【しかけ 3】

教材を基に努力の大切さについて学習した後自分の生活と比較して考えさせることで、自分が今努力していること、努力して上手くいった経験、上手くいかなかった経験を振り返らせることで自分事として考えられるようにする。

研究仮説 2 『学び合う活動の工夫』

【しかけ 4】

自分と友達の考えを交流し合うことで、理想に向かって努力する大切さについての考えを広げたり深めたりできるようにする。

5 本時について

(1) ねらい

登場人物の行動や気持ちを話し合う活動を通して、くじけず希望に向かって取り組む大切さ、希望に向かって努力する姿勢は無駄にならないということに気づき、理想に向かって努力していくこととする実践意欲を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動	【しかけ (研究仮説との関わり)】 ☆評価 (方法) ※留意点
○発問	◎主発問 ・予想される児童の反応	
1 導入	旭山動物園の映像を見せて話し合う。 ○動物園の映像を見て、どんなことが分かりますか。 ・ いろんな動物がいる。 ・ たくさん人で賑わっている。 ・ 廃園の危機にあったとは、信じられない。	【しかけ 1】 動物の映像を見せ、動物園が動物やお客さんで賑わっている様子をとらえさせる。また、かつては、廃園の危機にさらされていたことを知らせる。 ※話の中に小菅さんという登場人物が出てくることを知らせ、観点を与えてから教材に入るようにする。
学習課題	「市民に愛される動物園を目指して」を読んだ考える。 ○小菅さんは、どんな思いでガイドを始めたのだろう。 ・ お客さんに喜んでもらいたい。 ・ お客さんに動物の魅力を伝えたい。	・ 動物園のスタッフの人々、小菅さんの立場から、動物への思いに共感させたい。 【しかけ 2】 問い返し発問をすることで、より考えを深め、ねらいに迫れるようにしたい。 (問い返し例) ・ お客さんが喜ぶ動物園ってどんなものだろう。 ・ 動物の魅力を伝えて、どんな動物園を目指していたのだろう。 (問い返し例) ・ 動物へのどんな思いがあって、困難に立ち向かったのだろう。 ・ 廃園して、別の動物園で元気に過ごしてもらうのではダメだったのかな。 ・ 動物好きならだれでも乗り越えることができますね。 ・ あきらめないというのは、何をあきらめないということでしょう。
展開	○小菅さんが、何度も困難を乗り越えることができたのはなぜだろう。 ・ 動物のことを思っていたから。 ・ 廃園してしまえば、動物たちがかわいそうだから。 ・ 動物の魅力を伝えたいという思いがあったから。 ・ あきらめない気持ちをもっていったから。	

三沢市立第三中学校



道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

完了報告書

(三沢市立第三中学校)

1 道徳教育に関する改善状況の概要

本校では、道徳教育の抜本的改善・充実にを図るために、生徒の実態や教師や保護者の願いを踏まえ、校長の方針の下、今年度から教科化された「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）を平成30年度から校内研修に取り入れ、道徳教育推進教師を中心に道徳科の授業の在り方、評価の仕方について共通理解を深め、本年度の道徳科の授業に向けて準備を行ってきた。

今年度は、校内研修において「思いやりと道徳的な判断力を高めるための指導の研究」～道徳的価値について、考え議論する特別の教科道徳の授業実践を通して～を研究主題に掲げ、思いやりと適切な判断力を身に付けた生徒の育成を目指して道徳教育に取り組んだ。特に、「考え、議論する道徳」の教材や指導法について研修を行い、次の3つの柱のうち1年目は（1）と（2）に、2年目は（3）に重点を置き、道徳教育の抜本的改善・充実に図ることとした。

- （1）多面的・多角的に考えさせるための教材研究、「考え、議論する道徳」の授業展開や指導法の工夫
- （2）道徳科の授業の定着と発展を目指した全体計画及び年間指導計画の改善と活用
- （3）道徳科の「大きくくりなまとまりを踏まえた評価」の視点による学習評価の在り方の研究

本校の道徳教育の抜本的改善・充実に当たり、以下のことを目標とし、方法について検討した。

研究目標 生徒の思いやりと道徳的な判断力を高めるために、問題解決的な道徳を意識した指導の方法を実践を通して明らかにする。

研究の方法 ・自分だったらどうするか、人として何かできることはないか等を考えさせる問題解決的な道徳を取り入れた授業を実践する。
・問題をよりよく解決に導くために、生徒が他者と話し合いたいと感じる発問の工夫及び教材の精選を行い、より真剣に考えさせる活動につなげる。
・道徳教育及び道徳の授業で培った道徳性及び問題解決的な指導方法をもとに、各教科で授業実践を行うことで、基礎的・基本的な内容の定着につなげる。

その結果、次のような改善がみられた。

- （1）今年度から教科化された道徳の教科書の年間指導計画を基に積極的に授業に取り組んだことで、教材研究や指導法について検討する機会が増え、教師の指導力向上につながった。また、授業を進める中で出てきた疑問や学習指導要領の解説、指導方法を講師の先生方から指導していただいたことで、道徳教育に対する校内の共通理解が深まり、より一層、教師の道徳教育に対する授業の価値を見直すことができた。
- （2）本校の生徒は、仲間の活躍や行動に対しての関心が低く、仲間を褒めたり、目標をもって自分を向上させたいという意欲と行動を目にすることが少なかった。そこで、「考え、議論する道徳」「問題解決的な道徳」の授業や体験的な行事の振り返り、テストの学習計画など全校一緒に取り組む活動を有機的に結び付け、自分の考えや仲間の考えに触れ、今の自分を見つめ直す機会を増やした。こういった授業の積み重ねや日常生活の見直しを全校で行うことを通して、互いの行動への関心が高まり、思いやりをもとうとする感想が多くあげられるようになった。

2 実施した研究内容

(1) 小中連携を生かした道徳教育の体制づくり

ア 道徳教育の全体計画の改善

本校では、中学校の移転を機に、隣接する小学校との連携を深める活動をしてきた。運動会や挨拶運動、小学校の授業参観や中学校教師が小学生に授業を行ってきた。また、年4～5回による小中連携会議で行事の計画や反省、情報交換などを実施し、児童生徒の成長を9年間にわたり見守る環境を整えてきた。中学校でも道徳教育が教科化されることにより改めて、「9年間で育てたい児童生徒の道徳教育」を作成し、地域や保護者の願いも踏まえた9年間の道徳教育を意識することができた。また、小中の道徳教育に関する目標や課題を明確化することができた。この課題を他者との関わり合いや互いに支え合う体験を通して、思いやりの心と道徳的な判断力の育成に重点を置くことで、夢や希望をもって生きようとする児童生徒の育成につながると共通理解し、全体計画の改善や年間計画の見直しに取り組むことができた。

イ 年間指導計画の工夫

道徳科の授業を本年度から実施するに当たって、前年度より教科書の使用を意識した年間指導計画の見直しを検討してきた。教科としての視点から、存在からする教科書の使用が絶対であるという意識が強く、どのように使用していったらよいのか不安が大きかった。そこで、まずは35時間の授業を確実にいき、教科書会社で設定してある年間計画例を参考に年間指導計画を立てそれに取り組んでいくことで、本校に合った年間指導計画の見直しを図っていくことにした。特に道徳科となった本年度は、学担以外の教師も授業を積極的に行うことで、新しい道徳教育についての共通理解を深めることにした。また、授業担当の設定を1学期ごとに行い、一人一人が教材研究を進め研究授業や授業公開 week*を設定することによって道徳の授業に全教員が関わっていけるようにした。この計画を職員室にある各学年の掲示板に張り、授業の取り組み状況の把握や見直しをもって次時の教材研究に取り組むことができた。

*授業公開 week：校内研修の一環として行っている、日常的な授業を互いに参観し合う、授業改善のための取組

ウ 道徳教育推進教師の役割の明確化

本校では、道徳教育推進教師の担当者が昨年度から変わり、まずはその役割を担当教師が理解するところから道徳教育がスタートしたと言える。道徳科についての理解が追いつかないままではあったが、県で実施している道徳教育推進教師の研修などは、その役割の進め方において参考となるが多かった。

昨年度、道徳推進教師の役割として取り上げたのは、全教師が道徳科の指導要領の内容理解の深化と、授業に取り組むための資料や情報提供であった。今年度は、全体計画及び年間計画づくりを進め、各学年の道徳領域部会の教師中心に35時間の授業担当者の割り振りを年間指導計画表に記入し掲示した。

研修や授業を進める上で出た疑問などは、教師用の道徳通信「道徳の窓」を発行し、解説や学校としての方向性への理解を深めるための資料などを紹介した。また、生徒に対しても道徳科に対してのオリエンテーションを行い、保護者へ道徳通信「道徳の風」で授業の様子を紹介した。また、校内に「道徳のひろば」の掲示スペースを設け、各学年の授業の様子を写真や道徳に関する新聞記事を掲示した。

これらの取組により道徳科が学校の授業としてだけでなく、地域や保護者、生徒が「道徳教育」を意識できる環境づくりに役立てることができた。



〈道徳オリエンテーションの様子〉



〈校内の道徳掲示板〉



〈職員室の道徳掲示板〉

(2) 「考え議論する道徳」「問題解決的な道徳」を意識した指導方法の工夫

ア 本校の「考え議論する」の捉え方について

「考える」を多面的・多角的な見方をはたらかせて、主体的に自分の考えや感じ方を明確にする。「議論する」を対話の中で、多様な考え方や感じ方を伝え合い、自分の考え方や感じ方をより明確にすることと捉えた。また、そのねらいは、「納得解」や「新たな価値観の創造」へつなげることとし、道徳の授業では考え議論する場面、問題解決的な活動の場面を取り入れた。この場面や活動を進めるときの適切な人数や机の配置などについても話し合い工夫された。

イ 中央講師を招聘した理論研修の実施

本校では2回に渡り講師として毛内嘉威氏（秋田公立美術大学副学長）招聘し、1回目は小中連携の「新しい道徳について・道徳科の評価について・小中連携の道徳について」と題し研修会を開催した。

1回目の研修会では、道徳科に求められている学びについて解説していただき道徳科の目標について理解を深めることができた。道徳科の評価については、評価の意義と評価の仕方について参考資料を基に解説していただき、評価の仕方への共通理解をすることができた。また、本校教員の実践的指導力の向上が図られるよう小中連携の題材として「手品師」の教材を使い、小中での意見を交流しながら教材の扱い方やについて学ぶことができた。



〈小中連携研修会の様子〉

2回目の研修会では各学年の学担の授業において授業展開・発問内容について指導していただき、今後の指導方法への助言をいただいた。

ウ 研究授業及び協議会の実施

今年度、本校では、県教育委員会の指定を受け、9月に小・中学校道徳教育研究協議会を開催した。本協議会では、参加した上北管内小・中学校教員及び地域住民に対し、本校の道徳教育の取組を説明するとともに、授業公開を行った。公開授業では、1学年「困難や失敗を乗り越えて」（A-（4）希望と勇気、克己と強い意志）を主題とし、資料「栄光の架け橋」



〈公開授業の様子1年〉

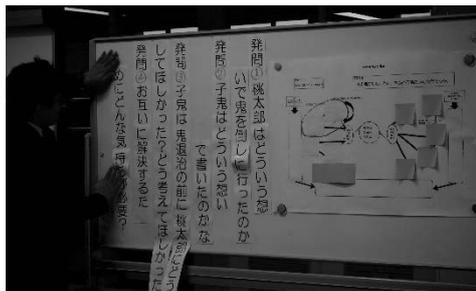
（光村図書）、2学年「考えや立場の違いの尊重」（B-（9）相互理解、寛容）を主題とし、資料「ジコチュウ」（光村図書）3学年「命の尊さ」（D-（19）生命の尊さ）を主題とし、「命の選択」（光村図書）、の資料を用いた指導を実施した。授業においては指導者の内容項目における理解をもって授業展開を考え、教科書資料の指導法、考え議論する場面、問題解決的な活動を中心に提案を行った。



〈公開授業の様子3、2年〉

研究協議会においては、「問題解決的な活動」が有効であったかについて、成果と課題を挙げるKJ法を利用したグループでの話し合いを中心に進められた。「（話し合い）個人→グループ→共有という順に話し合い、深まっていくので良かった。」「（説話）生徒の心に「グッと」くる話、心に深く残った。」「導入の事前アンケートと意味の確認をしたため、流れがスムーズにいった」「班編制は男女の話なので、グループも異性間の方が意見が深まる」「心情や状況をパーセント表示で立場をはっきりさせることによって、話し合いが円滑に進んだ」「相手との関わりの中で自分の考えを持つことが大事」「教科書・資料映像を使つてのテンポの良い授業であった」「意見が出しやすい環境（スケール）であった」という感想が寄せられるなど、本校の取組の成果と課題が明らかになり、更なる研修の必要性を感じることができた。

11月には校内研修として2学年において「考えや立場の違いの尊重」本当の正義について考えよう（B-（9）相互理解、寛容）を主題とし、「桃太郎」の鬼退治（光村図書）の資料を用いた授業を実施した。また、事前指導として学級活動においてリフレーミングを行い、自分自身を見つめ、相手の存在を認める活動も取り入れた。さらに、考え議論する場面を「考える場面」「議論する場面」の2つに分けて設定し、問題解決的な活動の場面においては「自ら道徳的問題に取り組む場面」「ひととして何かできることはないか考えさせる場面」を明確化する工夫を取り入れた。学習プリントとイメージマップへの記入を通して、自分の考えや仲間の意見を多面的に見ることができる指導法の研修ができた。また、三沢市教育委員会の江渡勇学校教育課長補佐より、本校の校内研究の取組みについて指導・助言をいただき、これまでの研修の成果や課題解決についての方向性を見直すことにつながった。



〈検証授業の様子〉

（3）道徳科の学習評価の在り方について

ア 今年度は、全学年共通の「道徳ファイル」に学習プリント・毎時間の自己評価用紙を準備し取組んだ。学習プリントは、生徒の最初の考え、仲間の考え、その後の自分の考えを記入する形を基本のものとした。自己評価は、授業後に生徒自身が簡単に評価できる選択制の形式とした。さらに、3学期には1年間の道徳の授業を振り返り、印象に残った授業や道徳の授業を通して自分の考え・行動・態度に影響があったことなどを記入する。これらをファイルしたものと教師が日常の生徒の様子を観察したものを合わせて、学担が学習評価を行う予定である。

「道徳ファイル」にファイリングする学習プリントや自己評価の内容については、より簡単に、全学年共通した内容のものを検討し、生徒自身も振り返りやすいものとした。

イ 生徒及び保護者、教師に対する道徳に関するアンケートについて

今年度から、「特別の教科 道徳」についての共通理解をもつために重点を置いたことは、教師側の道徳教育に対する意識改革であった。教師側の意識が変われば授業を受ける生徒の道徳に対する意識も変化すると考えたからである。そのために、生徒には道徳のオリエンテーション、保護者に対しては参観日や道徳通信で特別の教科となる道徳の情報提供を行った。オリエンテーションでは、道徳の授業が好き・どちらかといえば好きとしたのは、各学年2人程度であり、その他の生徒はどちらかといえば嫌いという回答であった。やはり、道徳の授業は「面白くない」「資料を読んで感想を言う」というイメージであった。保護者においては、アンケートの項目が具体的なものではなかったため、道徳教育に関する生徒の変容や期待度は高いものではなかった。しかし、生徒の道徳で学ぶテーマ（内容項目）を授業で説明するなどしたことで、生徒の感想から「道徳で何を学ぶのか」ということを理解して取り組むようになってきていると感じた。来年度は、道徳の評価についても研修していくことに併せて、生徒・保護者に対する道徳教育の意識調査も具体的なものとし、学校だけでなく家庭や地域を含めた道徳教育の在り方を考えていきたい。

3 実施経過

月	取組の内容	備考
4・5月	○小中連携研修 〈今年度の活動計画の準備・確認〉 ・全体計画及び年間指導計画の作成 ・研修計画の作成 ・授業担当者ローテーション計画 ・道徳ファイルの準備 ・年間研修計画の作成 ・生徒アンケートの実施・分析	・小中連携会議 ・道徳領域部会
6月	○県道徳教育推進協議会① ・研究計画の説明 ○仮説検証授業①の実施 1年1組「異文化の人々と共に生きる」2年1組「松葉づえ」3年1組「がんばれ おまえ」 光村図書	・本校道徳教育推進教師参加 ・学年主任による研究授業
7月	○仮説検証授業指導案検討会（校内） ○校内研修（講師招聘）仮説検証授業②（7/10） ・講師：毛内嘉威（秋田公立美術大学副学長） 1年1組「ヘレンと共にーアニー・サリバン」 2年2組「秀さんの心」3年1組「二通の手紙」	・学担3名による検証授業 上北教育事務所、三沢市・おいらせ町教育委員会より助言
8月	○小中学校道徳教育研究協議会（8/8） ○公開授業指導案検討会①（授業者、助言者）	・本校より1名参加
9月	○公開授業指導者検討会②（9/25） ○小・中道徳教育研究協議会（本校会場） ・公開授業（1年1組「栄光への架け橋」2年1組「ジコチュウ」3年1組「命の選択」）及び研究協議	・学担3名による授業
10月	○仮説検証授業③指導案検討会（校内） ○第53回全日本中学校道徳教育研究大会鳥取大会（10/24）	・道徳領域部会 ・本校より1名参加
11月	○研究授業③2年1組「桃太郎」の鬼退治	・三沢市教育委員会より助言
12月	○学校評価（保護者アンケート）の実施、集計及び分析 ○教師アンケートの実施、集計及び分析 ○研究のまとめ	・道徳教育推進教師
1月	○研究結果報告（県道徳教育推進協議会②）	・道徳教育推進教師
2月	○研究紀要の作成	

4 取組の成果と課題

- (1) 教育目標の評価と反省より（1学期・2学期）「思いやりをもち、自分も他人を大切にできる生徒4項目からアンケート実施」
 ・5月 道徳オリエンテーション、12月 道徳アンケートより

〔判断基準〕 4・・・ほぼ完璧にできている 3・・・できたことの方が多い
 2・・・できたこと、できなかったことが同じくらい
 1・・・できなかったことの方が多い

- 1 「ひとの嫌がること（いじめ・いたずら・人を傷つける言葉等）をしていない（SNSを含む）

	1年平均	2年平均	3年平均	全校平均
1学期	3.5	3.3	3.8	3.5
2学期	3.9	3.8	3.8	3.9

全校平均としては、0.4ポイント向上している。これは、日常的に教師側からの呼びかけや生徒会による全校討論会による言葉の使い方などについて考える機会が増えたことが行動や態度に影響したと考える。

- 2 自分の仕事（委員会・学級係）に責任を持ち、協力し合って活動している

	1年平均	2年平均	3年平均	全校平均
1学期	3.3	3.7	3.8	3.6
2学期	3.6	3.7	3.9	3.7

全校平均は0.1ポイント向上した。1、3学年は行事や委員会活動を通してリーダーとしての行動、それを支える後輩としての行動から変化が出たと考える。

- 3 相手のことを考え、「ありがとう」や「すみません」など素直に表現している

	1年平均	2年平均	3年平均	全校平均
1学期	3.7	3.6	3.7	3.7
2学期	3.7	3.7	3.7	3.7

全校平均は変化が見られなかった。態度や行動が道徳的に必要である場面と理解するも良い行動をすることに自信がない生徒が多いと考える。

- 4 校内外で積極的にボランティア活動をしている

	1年平均	2年平均	3年平均	全校平均
1学期	2.8	2.9	3.2	3.0
2学期	3.0	2.8	3.6	3.2

全校平均は0.2ポイント向上した。3年生を中心に校外での活動が見られ、その様子を見た1学年にボランティアの理解が高まったと考える。

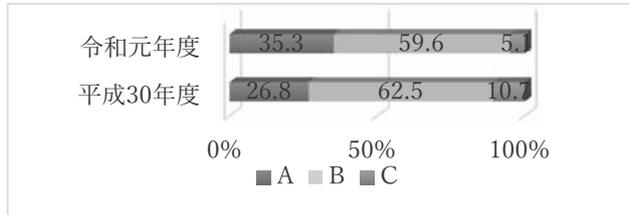
考察～生徒の内容項目に関するアンケート・感想に着目して

道徳科の授業やボランティア活動、体験活動・学校行事などの感想から、生徒一人一人が仲間の活動や意見を聞くことで他者の行動が自分の行動を見直す時間となっていた。また、学担以外の授業を数回設定することによって、様々な環境で授業を体験し、意見の交流ができたことが印象に残っているという感想が多くあげられたことは、道徳の授業への関心が高まってきたと考える。今後も全校体制でより活発に道徳教育に取り組んでいく体制を整えていく必要がある。

(2) 保護者アンケートより（11月に本校の教育活動についてアンケートを実施した道徳に関する項目より） A：よくあてはまる B：まあまああてはまる C：あまりあてはまらない

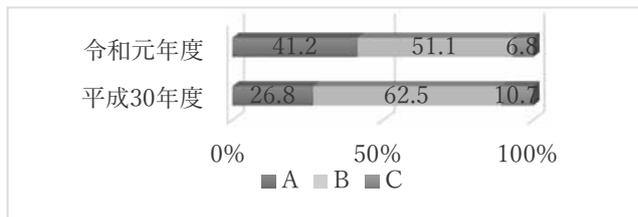
生徒について（主にご自分のお子さんについて）

1 生徒には、社会のルールを守ることの大切さや思いやりなどが身についている



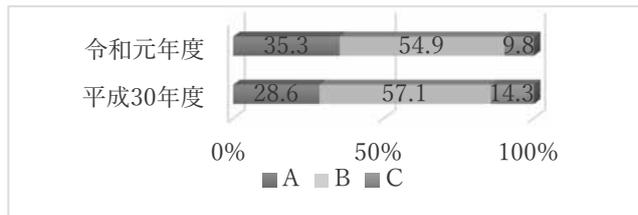
今年度は、A,Bのよい方への評価が高い。Cの評価についても、昨年度の半分近くに減少している。

2 生徒にはあいさつや身だしなみ、時間を守るなど基本的な生活習慣が身についている



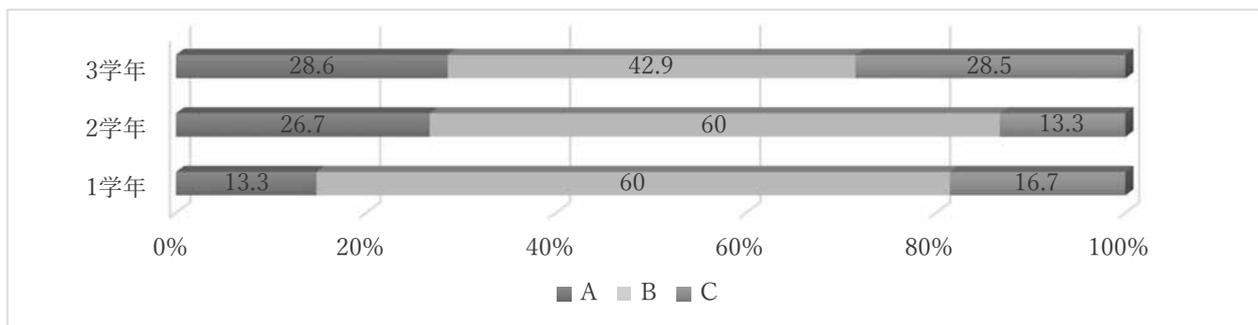
今年度は、Aへの評価が増加している。また、Cの評価も減少している。生活リズムについての呼びかけや振り返り活動をしたことが要因していると考えられる。

3 生徒は学校へ行くのを楽しみにしている



今年度は、Aへの評価が増加している。また、Cの評価も減少している。

4 生徒は、道徳的な言葉や行動、態度が見られるようになっている。（本年度より）



今年度から新たに設けた質問である。学年や生徒の成長段階により保護者の評価は異なる傾向である。

考察～保護者アンケートに着目して

保護者が今後の教育活動で特に期待していることとして、「学力の向上」と同数で「思いやり・感謝の心の育成」が最も高かった。次に「礼節を重んじ場をわきまえた態度の育成」であった。このことから、道徳教育に関する生徒の育成についての関心が高くなっていることがうかがえる。今後、さらに道徳教育を学校と地域・家庭で積極的に考え、共に子供たちを育てる環境整備に力を入れていく必要性を感じた。

(3) 教師アンケートより

- 1 ①道徳の時間を道徳の時間として適切に活用していますか
②道徳の指導資料の整備・開発・活用を意識的に行っていますか
- | | |
|-----------|----------|
| 4・・・十分 | 3・・・やや十分 |
| 2・・・やや不十分 | 1・・・不十分 |

年度	①	②
H30年度	2. 8	2. 3
R1年度	4. 0	3. 9

上記以外の自由記述による反省から（2学期末のアンケートより）

○道徳の時間の充実について

- ・学担中心で授業を行いたかった。最終的に評価を付けるのは学担となるため。
- ・郷土に関わる資料（三沢市）や教材についてはあまり準備できなかった。地元の歴史的なことを知る機会も必要。
- ・道徳の研修は、できるだけ多くの先生方が参加することによって、指導力向上につながる。今だからこそ、一人一人が道徳の情報を手に入れる（研修や書籍等で）べきだと感じた。

○多様な資料を用いた道徳教育の充実について

- ・教科書を中心に進めると共に、授業者本人が感動した資料を盛り込む努力をする。
- ・教科書やその他の資料・視聴覚教材も教材研究されて使われていた。

○授業研修について

個々の研修のおかげで授業としては成果があった。しかし、個々の努力が全体の指導力向上につながるよう道徳教育推進教師側がしていく面では不十分であった。「とりあえずやってみる」からやってみたことを全体で共有できる学校体制を整えていく必要がある。

(4) まとめ

本校が、「特別の教科 道徳」として道徳教育の取組を本格的に準備したのは昨年度からである。その初めの1歩が「教師の意識改革」「特別の教科としての道徳教育の共通理解」であった。今年度の授業や研修を通してより深く新しい道徳教育の理解を深めることができた。しかし、それと同時に多くの課題が挙げられた。主なものは次のとおりである。

- ① 道徳教育を推進していく側の先を見通した計画や体制づくりと共通理解。
- ② 生徒のより深い実態把握と全校共通体制の取組体制の整備。
- ③ 学習評価につながる評価体制づくりと全体研修の必要性。
- ④ 学校・地域・保護者を一体とする道徳教育への共通理解のための体制づくりである。

今年度の取組は、教師の道徳教育に対する意識改革には成果を上げたが、継続して取り組むことが今後、道徳教育が充実していく大きな鍵となる。職員がONE TEAMとなり、道徳教育推進教師を中心に全職員で作りに上げる道徳教育が改めて重要であると認識できた1年であった。

さらに、道徳の授業だけでなく、行事や体験学習においても生徒が「思いやりと道徳的な判断力を高める」機会として、事前のオリエンテーション、事後の振り返り反省会を全校一緒に教師主導で取り組ませることが効果的であった。異学年による意見を聞くことが立場の違いによる取り組み方の違いや相手を認める機会になった。今後は、先に挙げた4つの課題への対策を整理し、チーム体制で道徳教育の継続した取組を進めていきたい。

道徳科学習指導案

指導者 一 戸 信 孝

- 1 日 時 2019年9月25日(水曜日) 1校時
- 2 場 所 1年1組教室
- 3 対 象 1年1組 (男子5名 女子12名 計17名)
- 4 教 材 名 困難や失敗を乗り越えて 内容項目 (A-4 希望と勇気、克己と強い意志)
- 5 資 料 「栄光の架橋」

6 主題設定の理由

(1) **ねらいとする価値について**
 目標の実現のためには、様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を経験することなく目標を達成できることは皆無に近い。逆境から立ち直り、目標達成のために努力しつづけるためには、自分が置かれた現状、特に困難や失敗といった負の状況を受け入れ、希望と勇気を失わない前向きな姿勢や、苦労を将来の成功への糧とするような思考が大切であることを考えさせたい。

また、人は大小に関わらず目標を達成できたことにより満足感を覚える。そのことは人に自信を与え、次に向けての挑戦を促すものへと繋がる。このことを繰り返していくことにより、自分の可能性を広げ、人生の理想や目標を達成しようとする強い意志が養われ、生きることへの希望も育まれる。困難や失敗を乗り越えることで得られるものについても考えさせながら、そのことが次への段階につながっていくことにも気づかせたい。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は単学級であるため、小学校入学以降一度もクラス替えはなく、人間関係の大きな変化をこれまで経験していない。そのため、生徒同士お互いの特徴はそれぞれ把握しており、学校生活全般においてうまく立ち回って過ごしている生徒が多い。その一方で、波風立たせないように過ごしている側面も見受けられ、物事に対して簡単に妥協したり、諦めたりする生徒も少なくない。

5月に実施した道徳アセスメント調査(18名実施)から、内容項目「A 主として自分自身に関すること」に関する道徳的価値の理解度と道徳的行為の実践意欲(行動力)を把握した。結果は下のとおりである。

内容項目		理解度	行動力
自主、自律、自由と責任	自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	83%	65%
節度、節制	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をすること。	86%	58%
向上心、個性の伸長	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を	56%	74%

	伸ばして充実した生き方を追求すること。		
希望と勇気、克己と強い意志	より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。	75%	72%
真理の探究、創造	真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出すことと努めること。	72%	43%

この結果から「A 主として自分自身に関すること」の意識は全体的に高い。そして、本校の重点項目に掲げている「希望と勇気、克己と強い意志」は他の内容項目と比較して理解度と行動力の差がほとんど見受けられない。どちらの割合も高いことから、自分で目標を設定し、その達成のための行動をとることができると言える生徒が多いことがわかる。

また、本時で扱う内容項目に関するアンケートを8月に実施した結果(17名実施)は次の通りとなった。

- 1 **あなたは今現在、将来の夢や目標はありますか。**
 ある(88%) ・ ない(12%)
- 2 **あなたは今現在、中学校生活における目標はありますか。**
 ある(100%) ・ ない(0%)
- 3 **自分で設定した夢や目標について、努力すれば達成できると考えていますか。**

はい(94%) ・ いいえ(6%)

【理由】

- ・努力すれば必ず良いことが起きる。11名
- ・達成したいと思えばできる。2名
- ・やりたいことなら一生懸命やれる。
- ・本当にやりたいなら本気を出す。
- ・頑張ればよい結果が出る。

【理由】

- ・努力しても達成できるものできないものがある。

- 4 **もし、自分で設定した夢や目標について、このままだと実現するのが難しいと分かったとき、あなたはどうしますか。**

あきらめずに引き続き頑張る(88%) ・ 現実を受け入れてあきらめる(12%) ・ その他(0%)

【理由】

- ・あきらめなければきっと達成できるから 4名
- ・努力すれば実現できるかもしれないから 3名
- ・あきらめずに挑戦し続けることで 2名
- ・今までやってきたことが報われるから 2名
- ・自分で決めたことは最後まで頑張りたい 2名
- ・向かえば起きるから 2名
- ・あきらめたらそこで終わりのだから、自分の夢を絶対に叶えた方がいい 2名
- ・やりたい夢だから

【理由】

- ・少しハードルを下げて最終的にその目標や夢に向かえばいい。
- ・もしあきらめずに頑張っても実現できなかつたときに受け入れる。

(2) 校内研とのかかわり

研修主題

思いやりと道徳的な判断力を高めるための指導の研究
～道徳的価値について、考え議論する特別の教科道徳の授業実践を通して～

「栄光の架橋」の歌詞から、夢の実現に向けて数多くの苦労や挫折、不安があり、それを乗り越えた先に栄光や希望があることが読み取れる。この歌詞を通して北川さんが伝えたいことを生徒同士の意見交流の中で確認し合い、目標達成のために何が必要なのか、自分の考えや意見を見つめ直すことを促したい。目標実現のためには困難や失敗を乗り越えることが必要であると実感させ、困難や失敗を乗り越える自分なりの方法、すなわち納得解を選択できるような判断力を育てたい。

9 教材分析

主要場面	登場人物の心の動き	気づかせたいこと	発問
北川悠仁さんにアテネオリンピック・パラリンピックのテレビ放送用のテマソングの制作依頼がきた。	曲作りが進まなかった。世界を舞台に活躍する選手の気持ちを想像することができなかった。	・オリンピック選手も同じ人間であり、挫折や悔しさ、喜びも私たちと同じように感じている。 ・同じ人間だから重なる思いは、そのまま生徒たちにもつながる。 ・夢の実現や目標の達成のためには、困難や苦労を乗り越えて諦めずに取り組みこと ・くじけずに頑張りを続けた強い気持ち	思い通りに曲作りをすることができなかった北川さんが、『栄光の架橋』を作り上げることができたのは、どうしてだろうか。
『栄光の架橋』の歌詞	自分たち「ゆず」が歩んできた道の中で感じてきた気持ちを書こうと決めた。	・いろいろな苦労や挫折にも負けないで、自分の目標を達成するために一生懸命取り組み。 ・後悔しないようにやれることを全力で行う。 ・いろいろなことに迷わないで、目の前のことに集中して取り組む。	『栄光の架橋』を通して北川さんが伝えたいメッセージとは何だろうか。
			がんばってきたよかつた（これからがんばろうと思うこと）は何ですか。そのときどんな行動をとりましたか。（とるつもりですか）。

このアンケートの結果からも、自分で夢や目標を設定でき、あきらめずに努力し続けられ、実現できると感じている生徒が多いことが改めてわかった。おそらく、生徒自身がこれまでの生活の中で、大なり小なりの成功体験を経ている、もしくは人から成功体験を見たり聞いたりして自分が頑張ればできるという自信を持っている生徒が数多くいることがうかがい知ることができる。

ただ、道徳アセスメントの結果を見ると分かると分かつたように、他の内容項目に関しては理解度と行動力が伴っていないものも多くある。特に「向上心、個性の伸長」の理解度は半分程度となっており、自分自身をしっかりと深く省みるということがどういことなのか十分に理解していない生徒が少なくないことがわかる。

本校は1学級あたりの生徒数が他の学校と比較すると少なく、生徒一人一人の特徴を細かく把握できる。その利点を活かし、自分自身の今の状況を見つめさせ、安易な選択をすることなく、よりよい生き方、生活の過ごし方を選択できるように促したい。目の前の状況だけで判断するのではなく、先を見通した判断力を身につけさせたい。

(3) 教材について

2004年開催のアテネオリンピック・パラリンピックのテレビ放送用のテマソング「栄光の架橋」の歌詞と、日本のポップミュージックの一線を走り続けるデュオ「ゆず」の北川悠仁さんがその曲作りの際に苦しんだエピソードアテネオリンピック・パラリンピックで活躍した選手の言葉という、3つの要素で構成されている。歌詞からは、夢や目標を実現させようとする強い気持ちとともに、その実現までに出会うであろう困難や失敗、挫折や苦しみ、諦めや逃げ出した気持ちはも伝わる。成功という輝かしいところだけではなく、困難や苦しみがあり、その先に希望があるという本時のねらいとする価値に迫れる教材である。

(4) 指導にあたって

「栄光の架橋」の作詞者である「ゆず」の北川悠仁さんが、オリンピック選手にも自分と共通する思いや経験があることに気づいたことを押さえる。そして、栄光にたどり着く途上で経験する苦しみや諦め、逃げ出したくなる気持ちなどの弱い心は、誰にでもあるということを経験的に捉えさせるようにしたい。本文の記述にある『がんばってきたよかつた』と考えるようになるためにはどうすればよいか、それは成功したから、そう思えるのはもちろんだが、結果として成功したとは言えないとしても、準備や過程がしっかりしていれば『がんばってきたよかつた』と思うことができ、次への希望につながる。困難や失敗を受け止めて、行動すれば結果がどうであれ、人生という大きな時間の流れにおいて、は着実に前進しているということに気づかせていきたい。

7 他教科・領域との関連

- ・特別活動（文化祭における学級活動）
- ・中体連新人大会における事前事後指導（個人の目標設定～振り返り）

8 本時の指導

(1) 本時のねらい

ゆずの北川悠仁さん作詞の「栄光の架橋」と、その曲作りのエピソードを通して、困難や失敗を受け止め乗り越えることについて考えさせ、目標達成のために目の前のことから安易に回避することなく、着実にやり遂げようとする判断力を育てたい。

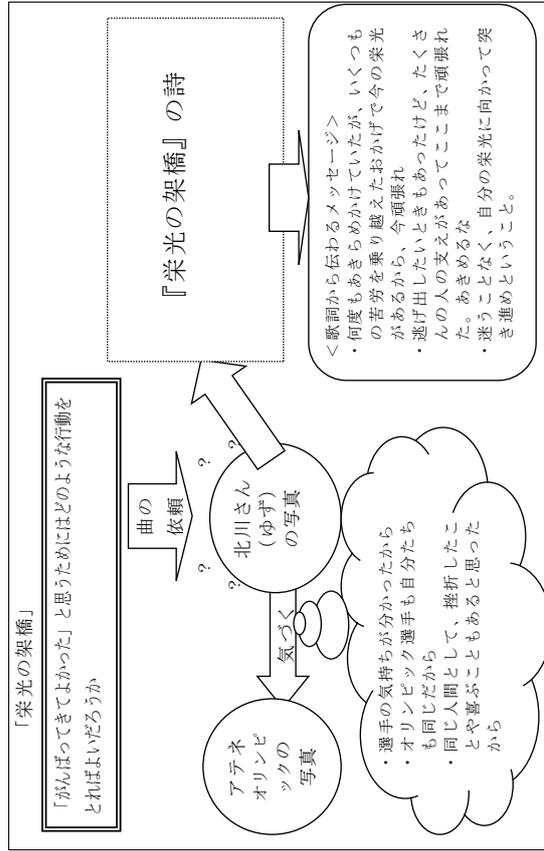
10 本時の展開

発着	教師の働きかけ	予想される反応	留意点 ● 評価 (方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 質問 「中学校に入学してから『がんばってきよかった』と思ったことはありますか。」 学びのテーマ提示 「がんばってきよかった」と思うためにはどのような行動をとればよいか 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動 ・ 勉強 ・ 習い事 ゲーム ・ 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> 留意点 ● 評価 (方法) ○ 『がんばってきよかった』がピンときていなかった』と「やりきよった」と思えたこととは異なるかを確認する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 教師の範読 発問① (資料把握) 「思い通りに曲作りをすることができなかつた北川さんが、『栄光の架橋』を作り上げたことのできたのは、どうしてだろうか。」 	<ul style="list-style-type: none"> 選手の気持ちや自分たちと同じという言葉が出てきたら、それは何なのかを掘り下げ、歌手と選手でも共通するところや選ぶことを押さえる。 口頭で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前半の詩は、ゆず『栄光の架橋』を実際に聴かせる。 ○ 選手の気持ちや自分たちと同じという言葉が出てきたら、それは何なのかを掘り下げ、歌手と選手でも共通するところや選ぶことを押さえる。 口頭で確認する。 ● 個人で想像した思いを踏まえて、グループで話し合うことを理解できたか。(観察)
	<ul style="list-style-type: none"> 中心発問 『栄光の架橋』を通して北川さんが伝えたかったメッセージとは何だろうか? 個人→グループ (3人) →全体 	<ul style="list-style-type: none"> 何度もあきらめかけていたが、いくつもの苦勞を乗り越えたおかげで今の栄光があるから、今頑張れたいと、逃げ出したけど、たくさんの人の支えがあったことまで頑張れた。あきらめなく、迷うことなく、自分の栄光に向かって突き進めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勉強や部活動等でどのように過ごしてきたときに「がんばってきよかった」と思えるのかを想起させる。今までの生活を振り返った中で、「がんばってきよかった」と思えたことがない場合は、これからのことについて記述させる。 ● 苦勞や挫折に負けず、目の前のことに取り組み結果が先に待っているというように気づくことができたか。(ワークシート)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 教師の脱話 学習のテーマに関連した話(結果は報われなくても、準備を十分にやりきよって達成感を感じた話)をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 必ずしも結果が良いとは限らないが、困難や挫折したことから逃げずに立ち向かえば次に繋がるということに気づき、今日の授業で学んだことと結びつけられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容項目に迫れるような話をさせる。

11 生徒の取組状況のポイント

- (1) 夢や目標を達成するためには、強い意志が必要であること、困難や苦勞を乗り越えた先に大きな喜びがあることを理解している。
- (2) 人は、どうして困難や失敗を乗り越えることができるのか、さまざまな意見を基に考えている。

12 板書計画



道徳科学習指導案

指導者 荒谷千華

- 1 日 時 2019年9月25日(水) 1校時
- 2 場 所 2年1組教室
- 3 対 象 2年1組(男子9名 女子9名 計18名)
- 4 主 題 名 考えや立場の違いの尊重 内容項目 B 相互理解、寛容
- 5 教 材 名 「ジコチュエウ」

6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

自分の考えや意見を人に伝えることは、人間関係を築き、深めるために欠かせないものである。それぞれものの見方や考え方があり、個性がある中で、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重していくことの大切さを理解する必要があるだろう。

また、中学校の段階について学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」では以下のように捉えられている。

学年が上がるにつれて、もの見方や考え方が確立するとともに、自分の考えや意見に固執する傾向も見えてくる。また、自分と他者の考えや意見の違いが明らかになることを恐れたり、考え方の違いから仲間だと思っていた関係に摩擦が生じたりして、悩み、孤立する場面がある。その一方で、過剰に同調する傾向も生じやすく、いじめのような問題に発展することもある。安易に人の意見に合わせることで、現実から逃避したり、自分さえよければよいという考えをもったりすることもある。(B 主として人との関わりに関すること 9 相互理解、寛容 指導の要点より)

相手の事情を考えず、自分だけの考えで相手のことを判断するのは、真の相互理解であるとは言えない。自分の考えや意見を伝え、相手の考えや意見を聴きながら、よりよい関係を作っていくためには、どんな心や姿勢が必要なのか、どのようにしていけばいいのかを考えさせられるように指導したい。

(2) 生徒の実態について

小学校から一学級編成だったこともあり、これまでの7年間で、互いの性格や人柄がおおむねわかっている関係性をもつ学級である。一方で、これまでの親密な関係性から、深く考えずに友達の見解に合わせる生徒も多い。観察している、「相手を尊重している」というよりは、「合わせたほうが面倒がなくて楽」といった様子である。また、友達の間で一面だけを見て否定的な言動を取るなど、安易な捉え方をする場面も見られる。これらのことから、「自分の行いが真の相互理解や寛容ではな

い」ということまでは考えられない生徒が多いと考えられる。

5月に実施した道徳アセスメント調査(18名実施)から、内容項目「B 主として人との関わりに関すること」に関する道徳的価値の理解度と道徳的行為の実践意欲(行動力)を見てみると、結果は下のとおりである。

	内容項目		理解度	行動力
	思いやり、感謝	誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること。		
思いやり、感謝	日々の生活が家族や過去の多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。	58%	50%	
礼儀	時と場をわきまきえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	92%	87%	
友情、信頼	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	58%	59%	
相互理解、寛容	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	71%	49%	

全体的に行動力が理解度を下回っている。このことから、良い行為だと理解していても、行動に移せていない生徒が多いことが分かる。特に、「思いやり、感謝」と「相互理解、寛容」において、低い数値が出ていることから、相手の立場になつて考えられない生徒が多いことが大きな課題といえる。「友情、信頼」の数値も低いことから、長年同じクラスにいても、互いに信頼できる人間関係の形成には至っていないのかもしれない。

また、「自分の意見と相手の意見」に視点を置いた事前アンケート(8月実施)では、以下のような結果となった。

Q1 次のような場面で、あなたは自分の考えや意見を相手に伝えられていますか。	伝えられている	伝えられていない
① 授業中(先生や班の人に対して)	15人	3人
② 休み時間(他の生徒に対して)	16人	2人
③ 家庭(家族に対して)	16人	2人
Q2 これまでに、他の人と自分の意見が食い違ったとき、あなたはどのようにしてききましたか。		
① 班活動や委員会、部活動などで、他の人と意見が食い違ったとき。	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の意見と自分の意見を取り入れて、不公平にならないようにする。【6人】(自分が思っていることだけやると、みんながついてきてくれなくなるから。) ・相手の意見に合わせる。【4人】(けんかを防ぐため。) ・違う意見を聞いて、その意見と自分の意見のどちらが良いか考える。【3人】(みんな納得できるから。) ・自分の意見を言つたうえで、相手に合わせる。【2人】(自分よりも、相手の意見のほうが良いことが多いから。) ・両方できないうちで、もしもできなければ相手に譲る。【2人】 ・意見を通すこともあれば、相手に合わせることもある。 	

<p>② 休み時間や休日に、遊びたい内容や場所が友達と食い違ったとき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のやりたいうことを先に、後から自分のやりたいことをする。【8人】 (けんかになりたくないから、友達の行きたい所に先にいく。平等に楽しめるから。) ・相手に合わせる。【7人】 (どちらかが折れないと時間をもたないから。言い合いになって悪い空気になるのを避けたいから。) ・自分の意見を言ったうえで、相手に合わせる。 (相手をがっかりさせないため。) ・自分の案も提案してみる。良いと思うほうを選ぶ。 ・意見が食い違わないように、友達が言った後に「あ、私もそこに行く。」と言う。
--

この結果より、自分の意見は大多数が伝えられているようである。委員会や部活動のときは、「互いに意見を出し合って決める」ことが多く、次いで「相手に合わせる」という意見があった。休み時間や休日などは、「友達のやりたいうことを優先する」という意見が多かった。「けんかになりたくない」や「相手をがっかりさせない」といった理由を挙げていたことから、友達の立場を考慮して尊重する気持ちよりは、「相手に嫌われたくない」といった心理が働き、友達に遠慮しすぎる気持ちのほうが強くなっていないかと思われる。

他者が置かれた状況や立場を理解し、相手のことも自分のことも尊重するためには、どういこうとを大切に相互理解を図っていくべきなのかという人間の生き方を考えさせたい。

(3) 教材について

本教材は、家庭の事情で早く帰ってしまう佐々木に対して、「ジコチュウ」と言ってしまった「僕」が、その事情を知り、相手を理解しようとしていなくなった自分に気づき、考えを改めようとする誠実な教材である。活用にあたっては、「僕」の言動を共感的かつ批判的に捉えながら、「相互理解に基づいた寛容や協力の姿勢が大切であること」に気づかせたい。「僕」と佐々木の関係だけでなく、級友との関係作りも考えさせたい。

(4) 指導にあたって

この内容項目では、個性とは何かについて正しく理解するとともに、自らの意志に背いて他に同調するのではなく、自分の考えや意見を伝えること、そして互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っているいろいろなものを見方や考え方を理解しようとする態度を育てることが大切である。そこで、本当の「相互理解」と「寛容」とは、どうあるべきかを考えさせたい。お互いに理解したいという気持ちがあっても、現実には、相手の内面はなかなか捉えにくいものである。そんなとき、自分からどう関わればよいのか、どういう心を大切にしながら相手と話し合っていけばよいのかを、自己に立ち返って考えさせたい。具体的には、「僕」の視点に生徒を立てたことで、想像をふくらませ、立場や状況の違いの理解を深めさせる。早く帰してあげることが佐々木のいらいらばん望んでいることなのかを考えながら、同情することや、いつものことだからと黙認する班員たちとは違う「僕」の関わり方について話し合わせたい。

7 他教科・領域との関連

・学級活動

- 役割分担の場面や、さまざまな話し合いの場面と関連づける。
- 思い込みや誤解によるトラブルやいじめ問題において、本時の学習を振り返らせる。
- ・国語科「4 関わりの中で 言葉2 敬語」(10月)
- 敬語は、人と人の相互尊重の気持を基盤とするものであることを気づかせる。
- ・美術科「豊かなイメージで伝えよう やさしいデザイン」(10月)
- 様々な状況の人の立場になって、使いやすいうデザインを考えさせる。

8 本時の指導

(1) 本時のねらい

自己中心的な考えに陥らないようにするためにどうすればよいかを考える活動を通して、それぞれの考えや立場の違いを尊重し合うために大切なことを考えさせ、相互理解に努め、他者に対して寛容な気持ちで接しようとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 校内研とのかかわり

研修主題

思いやりと道徳的な判断力を高めるための指導の研究
～道徳的価値について、考え議論する特別の教科道徳の授業実践を通して～

研修主題との関連において、本時の指導にあたっては2つの場面を設定する。(括弧は該当発問)

① 佐々木が「ジコチュウ」だと思ふか考える場面 (発問3)

こちらは、研修主題でいうところの「考え議論する活動」に相当する。いずれかの立場で考えさせることで、自分とは違う立場の意見と対峙することとなる。その時、互いの意見をよく聞いて、相手の意見の妥当性を発見することで、相互理解を図りたい。

② 「僕」はこのあとどんな行動をとると思うか考える場面 (中心発問)

こちらは、研修主題でいうところの「思いやりと道徳的な判断力を高めるための指導」に相当する。佐々木の家庭事情を知った「僕」の視点を通して、佐々木を含めた班員全員の思いをふまえ、もしも自分が「僕」だったらどのように行動するかを考えさせたい。

9 教材分析

主要場面	登場人物の心の動き	気づかせたいこと	発問
ある日の放課後、班で発表資料を作っているときのこと、佐々木がさっさと教室を出ていく。	嫌なやつ、最近日直の日のざりざりに来ることや放課後の班活動のときも途中で帰ってしまうことをよく思っていない。	佐々木に対して、「僕」は表面的な部分しか見とおらず、偏見をもち、意地になっているところがある。	発問① 佐々木は『ジコチュウ』だと思えますか。その理由は何か。
それから数日後、公園で小さい子を連れて笑顔で話しかけている佐々木を目撃する。	「あんな笑顔するんだ」と思った瞬間、佐々木に冷たい目で見られ、わけがわからなくなった。	佐々木の家族のことを知らなかったことから、普段からコミュニケーションがとられていないことがわかった。佐々木は、学校では気を張っていた。	発問② ここまで読んであなたは、佐々木が『ジコチュウ』だと思えますか。
その日の夕暮れ、急な雨が降り出し、スーパーで佐々木と出くわす。「僕」の母が傘を貸し、スーパーで買い物しているのをよく見かけると話す。	スーパーで買い物をしてるなんて知らなかった。	佐々木は、はじめ傘を借りるのを遠慮していた。佐々木には、早く帰らなければならぬといけないう事情があった。	発問③ 手紙を読んだ後、僕はどんなことを考えたか。
翌日、傘を返しに来た佐々木が、母親での礼状と「僕」宛ての手紙を渡す。	佐々木の置かれた状況や気持ちを知り、衝撃を受けて動けなくなった。佐々木に対してどう行動しようか考えを改めた、行動を起こそうとしている。	自分の一方的な見方で佐々木を「ジコチュウ」と言ってしまったことを反省している。個人の考えや立場そのものを変えようか、互いの考えや立場を尊重すること大切である。	中心発問 「僕」はこのあと、どんな行動をとるだろう。

10 本時の展開

段階	教師の働きかけ	予想される反応	留意点 ● 評価 (方法)
導入	○事前アンケート結果の紹介 ○「ジコチュウ」という言葉が使われていたか確認する。 ○学びのテーマの提示	・自分勝手な人を見たとき。 ・遊ぶ約束をしていたのに、当日になっても急に行けなくなったと言われたとき。 ・みんなのルールを守らず、自分勝手に行動してしまったとき。	○留意点 ● 評価 (方法) ○日常生活における自分の体験や見聞きしたことを具体的に書かせる。 ○「ジコチュウ」がどのようなことかを共有させる。
		「ジコチュウ」について考えよう。	
	○登場人物の確認 ○範読 (～P98、L17)		

展開	発問① 「佐々木は『ジコチュウ』だと思えますか。その理由は何か。」	発問② 「ここまで読んであなたは、佐々木が『ジコチュウ』だと思えますか。」	発問③ 「手紙を読んだ後、僕はどんなことを考えたか。」	中心発問 「僕」はこのあと、どんな行動をとるだろう。
	○自分ながらどう思うかを口頭で対話しながら考えさせる。	○「ジコチュウ」だと思わないか、どちらともいえないかを考えさせ、名前の磁石を貼る。	○「ジコチュウ」だと思わないか、どちらともいえないかを考えさせ、名前の磁石を貼る。	○「僕」の考えを踏まえてこのあとの行動を想像できているか。(ワークシート) ○生徒の意見から、互いの考えや立場を尊重することが大切であることをまとめる。
	○「僕」の考えを踏まえてこのあとの行動を想像できているか。(ワークシート)	○「僕」の考えを踏まえてこのあとの行動を想像できているか。(ワークシート)	○「僕」の考えを踏まえてこのあとの行動を想像できているか。(ワークシート)	○「僕」の考えを踏まえてこのあとの行動を想像できているか。(ワークシート)
	○感想、自己評価を記入させる 「最後に、佐々木は『ジコチュウ』だと思えるか、理由や感想もつけてワークシートに記入しよう。」	○感想、自己評価を記入させる 「最後に、佐々木は『ジコチュウ』だと思えるか、理由や感想もつけてワークシートに記入しよう。」	○感想、自己評価を記入させる 「最後に、佐々木は『ジコチュウ』だと思えるか、理由や感想もつけてワークシートに記入しよう。」	○感想、自己評価を記入させる 「最後に、佐々木は『ジコチュウ』だと思えるか、理由や感想もつけてワークシートに記入しよう。」
まとめ	○教師の説話	○教師の説話	○教師の説話	○教師の説話

(事前アンケート1)

2年 道徳

組	番

1 1 生徒の取組状況のポイント

- (1) 相手の立場や状況を考えないで判断したり、行動したりしたこれまでの自分のことを想起して、照らし合わせながら考えている。
- (2) 考えの違いを尊重し合うためにどんなことが大切なのか、さまざまな立場や状況を踏まえて考えようとしている。
- (3) 人それぞれに置かれた状況や立場の違いがあることを理解し、寛容の心をもとうとしている。

1 2 板書計画

(紙板書)

Q. 「ジコチュユ」って何？	登場人物
・自分勝手	・僕
・約束守らない	・班の友達
・自分さえ良ければそれでいい	・佐々木 (女子)

ジコチュユ

「ジコチュユ」について考えよう。

思う

思わない

両方

佐々木

 僕

 両方

佐々木

 小さいきょうだいがいる。

 母親が入院。家のことをやっている。

○あなたは、佐々木が「ジコチュユ」だと
思いますか？

「僕」はこのあと、どんな行動をとるだろう。

・佐々木のことは他の人には話さないけど、
佐々木の責任感を認めた発言をする。

互いの考えや立場を 大切にする。
思い合う。
尊重し合う。

Q 1 次のような場面で、あなたは**自分の考えや意見**を相手に伝えられていますか。
どちらかに○を書きましょう。

① 授業中 (先生や班の人に対して)	伝えられている	・ 伝えられていない
② 休み時間 (他の生徒に対して)	伝えられている	・ 伝えられていない
③ 家庭 (家族に対して)	伝えられている	・ 伝えられていない

Q 2 これまでに、**他の人と自分の意見が食い違ったとき**、あなたはどのようにしてきましたか。
普段の自分を思い出して、書きましょう。

① 学校生活でのとき	(例) 班活動や委員会、部活動などで、他の人と意見が食い違ったとき。
② 休み時間や休日のとき	(例) 遊びたい内容や場所が友達と食い違ったとき。

(事前アンケート2)

2年 道徳

～考えてみよう～

組	番

☆ 「ジコチュウ」 だなと思っただことや、人に言ったことはありますか？
 または、言われたことはありますか？

あてはまるものに○	1 () 「ジコチュウ」 だなと思っただこと、言ったことがある。 2 () 「ジコチュウ」と人から言われたことがある。 3 () 「ジコチュウ」 だなと思っただこと、言ったことはない。 4 () 「ジコチュウ」と人から言われたことはない。
(1、2と答えた人) それはどんなことが あったとき？	

(意見カード) ※両方、もしくは片方の立場で意見を書く。片方の場合は点線で切り離す。

佐々木は「ジコチュウ」だと思おう (理由)	
佐々木は「ジコチュウ」だと思わない (理由)	

月	日

16 ジコチュウ

組	番

学びのテーマ

「ジコチュウ」について考えよう。

○「僕」はこのあと、どんな行動をとるだろう。

○今日の授業の感想

道徳科学学習指導案

指導者 乙供靖史

- 1 日 時 2019年9月25日(水) 2校時
 2 場 所 多目的ホール
 3 対 象 3年1組(男子10名 女子11名 計21名)
 4 主題名 命の尊さ 内容項目(D-19 命の尊さ)
 5 教材名 「命の選択」
 6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目 D(19)「命の尊さ」は、「命の尊さ」について、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。」となっている。生命はかけがえのないものであり、決して軽々しく扱ってはならない。生命を尊重することとは、自分の命は当然ながら、他の人間の命も大切にすることである。

生命には「関連性・連続性」や「特殊性・偶然性」がある。「関連性・連続性」は、生命の過去から未来への受け継ぎを意味する。生命は単独で成立しているものではなく、受け継がれ、支え、支えられ存在しているのである。「特殊性・偶然性」は、今生きている個人は、過去をどれほど遡っても、またこれから先も誕生しない存在であることを意味する。これらのことから、当然ではあるが、命を大事にしなければならぬのである。また、生命には「有限性」という、避けることのできない事実もある。これは、生きているものには必ず死が訪れる、という真理を意味する。死は確実に、誰にでも訪れる。更に、死がいつ訪れるかも不可知であるという事実が、常に私たちに突きつけられている。これらをふまえたうえで、「最期の判断」に焦点をあてていきたい。

このことは、家族に対して行わなければならない時が、誰にでも、やがては訪れるということから、自分事としてとらえさせたい。正解がなく、葛藤を生むことでもある。自分以外の様々な意見を聞くことも大切である。広い視野から、生命を多面的・多角的に考えることが、生命を心から尊重する態度を養うことにつながるかと考え、主題を設定した。

(2) 生徒の実態について

①道徳アセスメントの結果から

本教材を進めるにあたって、道徳アセスメント調査を実施した。到達度の高い内容項目と低い内容項目の結果は、以下の通りである。

○理解・行動共に到達度70%以上の内容項目

内容項目	理解到達度(%)	行動到達度(%)
C-(10) 遵法精神、公德心	9.5	8.0
C-(12) 社会参画、公共の精神	7.6	7.3

○理解・行動共に到達度40%未満の内容項目

内容項目	理解到達度(%)	行動到達度(%)
A-(5) 真理の探究、創造	3.6	2.2
D-(19) 命の尊さ	3.6	3.2

今回の主題に直結する内容項目「命の尊さ」に関する到達度の結果は、「理解」36%、「行動」32%であり、学級のなかで到達度が低く、課題であることがわかった。

②学級実態調査から

道徳アセスメント調査において、到達度が低かった「命の尊さ」に関する意識調査を実施した。結果は以下の通りである。(対象生徒21名)

1	あなたは、家族や親戚など身近な人で、赤ちゃんや生まれ、うれしいと思ったことがありますか。	はい……………	9.5%
2	あなたは、家族や親戚など身近な人が死んで、悲しいと思ったりありますか。	はい……………	9.5%
3	あなたは、家族や友人などから必要とされていると感じることはありませんか。	はい……………	100%
4	あなたは、命より大切なものがあると思いますか。	はい……………	5%
5	他人の体を傷つけると、法律で罰をうけることを、あなたは知っていますか。	はい……………	100%
6	中学3年生になって、家族と命について、話し合いをもちましたか。	はい……………	10%
7	尊厳死という言葉の意味がわかりますか。	はい……………	5%

質問1と質問2は、誕生の喜びや死の悲しみの経験についての質問である。ほとんどの生徒が、身近な人の誕生や死に接し、その喜びや悲しみを体験している。

質問3は、自己有用感の経験についての質問である。100%の生徒が、「自分が必要とされている」と感じている。このことは、生徒が学校の活動において、積極的に参加し自分の役割を主体的に果たしていることを意味している。

質問4は、命より大切なものに対する意識についての質問である。ほとんどの生徒が、命が1番大切であるとしている。全ての生徒が、命が何ものにも代え難いものであるという認識もたせる指導をしていく必要がある。

質問5は、法律の理解についてのものである。この理解は極めて高かった。様々な機会を設け、生徒に対して、より一層の正しい規範意識を身に付けさせていきたい。

質問6と質問7は、家庭での話し合いについての質問である。ほとんどの生徒が家庭において、命についての話し合いをしていないという実態が浮かびあがった。尊厳死についても、ほとんどの生徒が理解していない。

命の大切さについては、小学校から学んでいる。春先に実施される交通安全教室でも毎年学んでおり、交通安全教室後のアンケートでは、異口同音に「命は大切である」と回答している。しかし、日常生活の中で、その意識が具現化されているとは言いがたい。それは、比較的健康的に毎日過ごし得ている生徒が多く、その健康状態が当たり前だと考え、死が身近に起こり得るという認識が低いからだと考えられる。そのため、周りの人を平気で傷つけてしまう言動が見られる。生命は大切なものと長年にわたり、学んできたにも関わらず、理解や行動には結びつかず、好ましくない言動をとり、学んできたのが現実である。そこで、生命はたった1つしかないかけがえのないものだということを、考えさせたい。更には、命は有限であり、誰にでも「最期の判断」を迫られる現実があることを認識させたい。

(3) 資料について

僕の祖父は肺炎におかされ、命の危機がせまっている状況にある。祖父は以前から「延命措置はしないしてほしい」とその意思を家族に伝えていた。それは、家族にいい選択をさせたくないと同時に、迷惑を掛けたくないという祖父の気遣いによるものであった。祖父の症状が悪化した際、医師は、症状の改善につながる治療の一環として、人工呼吸器の取り付けを提案する。その医師の言葉に父母は思い悩む。結果として、人工呼吸器の取り付けを父母は選択する。医師の命を助けるという当然の行為に対して、祖父の意思を知っている父母の複雑な心情が読み取れる。父親の「どうすればよかったのだろう」という言葉に、僕の心情は大きく揺れる。祖父の意思に反して延命措置をとったことへの葛藤や、大きな意味での尊厳死について、深く考えさせられる資料である。

(4) 指導にあたって

本資料は、祖父、父母、僕の心情を考えさせながら「命の大切さ」について、深く考えることができる。父母の行った延命措置という命の選択に対して、自分であればどうするかということをも明確にし、理由とともに発表させ、対話的な学びを行いたい。「延命措置をしない」（祖父の意思を尊重する）ということ、祖父の死が早まること

を意味する。その祖父は家族に辛い選択をさせないために、延命措置を拒んでいる。一方、「延命措置をする」（祖父の意思を尊重しない）ということは、父母の立場から祖父を痛みから救い、少しでも長く生きてほしいということの意味である。このことは、どちらの選択が正しいとは誰にも判断がつかない命の尊厳に関わる難しい問題である。資料の登場人物を、自分や自分の大切な人に置き換えて考えさせることにより、命の大切さについて深く考えられる機会としたい。

7 他教科・領域との関連

- ・ 現代的な課題等との関わりとして、法教育、健康教育、福祉に関する教育。
- ・ 社会科公民分野（新しい人権）の生命倫理と自己決定権。（9月）

8 本時の指導

(1) 本時のねらい

祖父の意思に反して、延命措置を施すことについて葛藤する家族の姿を描いた文章や尊厳死の映像、尊厳死に対する複数の立場の新聞投稿をもとにした意見交流を通して、命について多面的・多角的に考えさせ、生命を尊重する道徳的心情を育てる。

(2) 校内研との関わり

研究主題

思いやりと道徳的な判断力を高めるための指導の研究
～道徳的価値について、考え議論する特別の教科道徳の授業実践を通して～

本時の内容項目D-（19）「生命の尊さ」は「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること」としている。「考え議論する活動」場面との関連について以下の事項に注意していきたい。

- ① 意見が分かれる発問をする
延命措置という行為を実際に「行う」か「行わない」かは、「最期の判断」に直結する部分である。生徒が自分の意見を持つために必要な情報を与え、自分で考えられる意欲を高めるような発問にしたい。
② 全員に自分の意見をもたせる
延命措置を「行う」か「行わない」かについての理由をワークシートへ記入し、話し合い活動を行う。そのうえで、スケールを使い自分の意見と他の意見を比較する機会を設ける。この話し合い活動、他の意見との比較の時間を十分に確保し、全員が主体的に授業に参加できるようにする。
③ 意見を分類する
黒板にある意見を読み取る時間をとり、分類する時間を十分に確保する。一人一人

が課題に向き合い、教師や他の生徒との対話を行い、自分の考えを深めていく過程が重要と考える。命を考えることは死を考えることでもある。誰にでも訪れる「最期の判断」について、多面的・多角的な思考があるということを考えさせたい。

9 教材分析

主要場面	登場人物の心の動き	気付かせたいこと	発問
祖父が肺がんになり、自分は尊厳死を希望することを父、母、「僕」に告げる。	祖父が延命を拒否したのは、家族に迷惑を掛けたくないからである。	祖父が延命を拒否することによって、死を選択するというつらい決定を、家族が行う必要がなくなる。	祖父が延命を拒否したのはなぜか。
祖父の病状が悪化し、医師から人工呼吸器をつける提案を受け、家族はそれに同意する。	父は、祖父の意思には反するものの、祖父のことを考えて、人工呼吸器の取り付けに同意した。	父は、祖父の苦しそうな姿を見て、祖父の意思に反する決断をしてしまう。	中心発問 あなたは、治らない病気の家族に対して、当事者が延命を望んでいない場合、人工呼吸器を取り付けるか。
人工呼吸器をつけたことについて、家族が迷う。	父が、延命措置をしたことについて迷い、苦しんでいる。	延命措置を行う場合と行わない場合、そのどちらが正しいかは誰にも判断のつかない難しい問題である。	
人工呼吸器取り付けについて、家族が迷う。 ※人工呼吸器取り付けに関する映像資料から。	延命措置をすることにより、苦しさが継続することを家族は心配する。	延命措置を行う場合と行わない場合、どちらにしても家族には苦しみが伴う。	あなたが命の選択を迫られた時に、大事にすることは何か。

10 本時の展開

段階	教師の働きかけ	予想される反応	留意点●評価(方法)
導入	○命が大切な理由を確認させる。 ○学びのテーマの提示。 命について考えよう。	○命が大切な理由を考える。 ・1つしかない。 ・受け継がれてきた。 ・限りがある。	○留意点●評価(方法) ○偶然性、連続性、有限性について確認する。
展開	○教材の範読。 発問① 「祖父が延命を拒否したのはなぜか。」 中心発問 あなたは、治らない病気の家族に対して、当事者が延命を望んでいない場合、人工呼吸器を取り付けるか。	・教科書P138～139を読む。 ・家族に治療をやめるというつらい決定をさせたくないから。 ・家族に迷惑を掛けたくないから。	○祖父の家族を思う気持ちに気付かせよう。 ○自分の意見をもたせる。 ○時間を十分に確保し、全員が主体的に授業に参加できるようにする。
	○自分の立場の明確化を行う。	○自分の立場を明確にする。 ・自分の立場を、黒板上に提示(ネームプレートを貼る)する。 人工呼吸器を取り付ける。 ・苦しさから救ってあげたい。 ・少しでも長く生きてほしい。	

<p>いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取り付けないということ は、家族を見捨てること になる。 人工呼吸器を取り付けない ・苦しさを続けさせたくない。 ・意識のない状態がかわい そうである。 映像資料を見る。 	<p>○人工呼吸器取り付けに関する 映像資料を見せる。</p>	<p>○自己の判断・理由付けを明 確にする。</p>
<p>○小グループ(ペア) に分かれ、延命措置 について考える。</p>	<p>○自分の立場を明確にする。</p>	<p>○自分の立場を明確にする。</p>
<p>●映像のどの部分に 共感したのかを、 意見交流で明確に することができた か。 (黒板ネームブレイ ト)</p>	<p>●自分の考えを明確 にすることができ たか。 (ワークシートの記 述)</p>	<p>●自分の考えを明確 にすることができ たか。 (ワークシートの記 述)</p>
<p>発問② 「あなたが、命の選択を迫ら れた時に、大事にするのは 何か。」</p>	<p>○自分の意見をワークシ ートに記入する。 ・当事者の意思。 ・とにかく助けるとい うこと。</p>	<p>○自分の意見をワークシ ートに記入する。 ・当事者の意思。 ・とにかく助けるとい うこと。</p>

<p>まとめ</p>	<p>○教師の話を する。 ○振り返りシートへ記入さ せる。</p>	<p>○話し話を聞く。 ○振り返りシートに記入す る。 ・自分になかった考えや学 んだことを書く。</p>	<p>・最期まで一生懸命生きさ せる。 ・答えは出せない。 ○命について学んだ ことを書かせる。</p>
------------	--	---	--

1 1 生徒の取組状況のポイント

- (1) これまでの学びや経験から、命の偶然性、連続性、有限性について理解している。
- (2) 最期の判断を考えることによって、命の尊さについて、「人間としての尊厳」や「個人
の意思」という様々な面からとらえ方があることに気付き、自分事として考える
ことができる。

1 2 板書計画

<p>命の選択 ◎「命」について考えよう</p>	<p>取り付ける (生きる) 100 [ネームブレイト] [ネームブレイト] [ネームブレイト] [ネームブレイト] [ネームブレイト]</p>	<p>取り付けない (死ぬ) 0 [ネームブレイト] [ネームブレイト] [ネームブレイト] [ネームブレイト] [ネームブレイト]</p>
<p>あなたは、治らない病気の家族に対して、当事者が延 命を望んでいない場合、人工呼吸器を取り付けるか。</p>	<p>○あなたが命の選択を迫られた時に、大事にするのは何か。 ・当事者の考え。 ・延命を続けるということ。 ・答えは出せない。</p>	<p>人工呼吸器</p>

道徳学習指導案

指導者 石 岡 祐 介

- 1 日 時 2019年11月18日 (月曜日) 5校時
- 2 場 所 多目的ホール
- 3 対 象 2年1組 (男子9名 女子9名 計18名)
- 4 主 題 名 考えや立場の違いの尊重 内容項目 (B-(9) 相互理解 寛容)
- 5 資 料 「『桃太郎』の鬼退治」

6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

中学校の学習指導要領(平成29年告示)解説、「特別の教科 道徳編」では、「相互理解、寛容」について以下のように捉えている。

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと

人と人が理解し合うためには、まずは自分の考えを伝えることが鍵となる。考えを伝え合い、自分と異なる考えをもつ人がいることで、初めて自分の考えが一方的であることに気付くことができる。そして、人はそれぞれの見方や考え方にとらわれやすいことを意識できると、それが相手の立場を尊重することにつながる。また、相手を尊重し、他者に学ぶことは、自分の考えを確かなものにしていくことになる。互いに高め合える人間関係を築くためにも、それぞれの立場や考えの違いを認め、互いを尊重し、学び合うことが必要である。

(2) 生徒の実態について

5月に実施した道徳アセスメント調査(18名実施)から、内容項目「B 主として人との関わりに関すること」に関する道徳的価値の理解度と道徳的行為の実践意欲(行動力)を見てみると、以下のようになる。

内容項目	理解度	行動力
思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々との善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間	58%	50%

礼儀	愛の精神を深めること	92%	87%
礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること			
友情・信頼	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと	58%	59%
相互理解・寛容	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があって謙虚に学び、自らを高めていくこと	71%	49%

全体的に道徳的価値の理解が高いにもかかわらず、道徳的行為の実践意欲が低くなっている。特に「相互理解、寛容」において、その差が大きい。これは、良い行為と知っているながら、行う自信がなかったり、迷いがあったりすることを表している。

そこで、本時で扱う内容項目「相互理解、寛容」について、さらに詳しく分析するために以下のような事前アンケートを実施した。実施日(10月21日(月))18名

<p>1. 考えや立場の違いから対立したとき、自分の考えや意見を伝えていきますか。</p> <p>① 相手が誰でも自分の意見を伝える事が多い(4人)</p> <p>② 相手によって伝えるか伝えないか判断する(10人)</p> <p>③ 自分の意見を伝えないことの方が多い(4人)</p> <p>2. 1の質問でどんな理由で番号を選んだのですか。</p> <p>①の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を伝えることで話し合いが深まるから、自分の意見を知ってもらいたい(4人) <p>②の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝えても意味のない人がいる(3人) 目上の人には伝えづらい。相手に嫌な思いをさせたくない(7人) <p>③の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の意見を聞くことが大事だから(1人) 怒られるから(1人) ほかの人に任せるから(1人) 相手がどんどん意見を言うから、言い返したくない(1人) <p>3. 考えや立場の違いから対立したとき、あなたはどうしていますか？</p>

- ・お互いの考えや意見を言う。話し合いをする。(9人)
- ・相手に理由を聞く(5人)
- ・相手に合わせる(2人)
- ・相手の意見に共感する(1人)
- ・無視する(1人)

4. 3で答えたような行動をとるのはなぜですか。
- ・良い結論を出すため(3人)
 - ・どちらが正しいか判断するため(2人)
 - ・選択肢が増えるため(1人)
 - ・相手の考えを知りたいから(3人)
 - ・相手と嫌な関係になりたくない(7人)
 - ・相手を優先させたい(1人)
 - ・相手の意見を聞きたくない(1人)

5. 他の人の良い面を積極的に見つけようとしていますか。
- ① 相手が誰でもどんな場合でも見つけようとしている(2人)
 - ② 相手や場合に応じて見つけようとしている(11人)
 - ③ あまり見つけようとはしていない(5人)

6. 相手が誰でも、どんな場面でも謙虚に他の人から学ぶようにしていますか。

- ① 相手が誰でも、どんな場面でも謙虚に学ぶようにしている(8人)
- ② 自分で学ぶことができる相手や場合を判断している(9人)
- ③ 相手やいろいろな場面において、あまり学ぶべき事はない(1人)

7. 「正義」という言葉の意味を書いて下さい。
- ・正しいこと。みんなを守ること(10人)
 - ・集団の中で正しいこと(1人)
 - ・困っている人を助けること(1人)
 - ・嫌われる存在、自分が傷つき誰かを助けること(1人)
 - ・悪いことは悪いと言うこと(1人)
 - ・悪に対して載く事。使っている方によっていつでも悪くなったりする(1人)
 - ・優しくすること(1人)
 - ・平和な世界を作ること(1人)
 - ・どんな相手でも、謙虚に相手を認め敬うこと(1人)

8. 「正義の味方」という言葉の意味を書いて下さい。
- ・正しいことに力を入れる人(2人)
 - ・正義をもって下さい。
 - ・正しい気持ちを持っている人(1人)
 - ・みんなの集まりの中で英雄的存在。正しい存在。正義に従っている人(1人)
 - ・みんなを守る人(2人)
 - ・困っている人を助ける(2人)
 - ・善人の味方で、どんな人も助けようとしている人(1人)
 - ・どの場合の人からでも慕われ、みんなを守る人(1人)
 - ・良いことは良いこと、悪いことは悪いことだと教えてくれる人(2人)
 - ・自分を見方をしてくれる人(1人)
 - ・いつでも、どこでも誰にでも平等に優しくする(1人)
 - ・平和な世界を作ろうとしている人や、その人を応援する人(2人)
 - ・どんな相手でも、謙虚に相手を認め敬う人(1人)

上記の結果から、考えや意見が対立した時、相手の立場に立って意見を聞いたり、自分の意見を伝えたり、また話し合いをしたりする人が比較的多い。その理由として、多くの人が、相手と嫌な関係になりたくないかと答えている。しかし、お互いにとって良い結論をだすために話し合いをすという人は少ない。また、他の人の良い面を積極的に見つけたり、謙虚に学んだりする人も比較的多いが、人によって選んでいる傾向がある。このことから、どんな人でも良い面を積極的に見つけたり、他の存在の独自性を認めたりするなど、いろいろなもの見方や考え方があつて理解させたい。そうすることで、他者から学び、自分自身を高め、他者とともに生きるという自制を伴った気持ちで、判断し行動することの大切さも理解できるのではないかと考えている。

(3) 資料について

本教材は、前半は昔話の桃太郎、後半は桃太郎の話を「鬼の子」の立場で見たらどうなるかを表した広告で構成されている。広告のインパクトが非常に強いため、「鬼の子」の感情理解にとどまってしまうと、「相互理解、寛容」の学習にならない。そこで、活用にあたっては、桃太郎の行動や考え方を批判的に捉え、互いの意見を交わし合わせるとともに、それぞれ立場を十分に、そして冷静に理解させ、お互いに歩み寄る気持ちを持たせようとして、自分の考えをもてるようにしたい。

(4) 指導にあたって

まずは、個性について考えさせたい。そのため、事前指導(学級活動)においてリーディングを行う。個性とは、他者と取りかえることのできない1人1人がもつ独自性である。自分自身の嫌な部分も見方を変えれば輝く個性になる事を理解し、相手の存在を認めることにつなげたい。

また、本時の批判的な活動を通して、異なる立場でもお互いに自分の意見を発信し、他の人から謙虚に、学ぶ姿勢を作りたい。そのために意見が対立したままでは終わるのではなく、相手の考えや意見を個性として認め、尊重し、そこからお互いに歩み寄って、道徳的価値について考えを深めていく機会としたい。そうすることで、生徒がこの先、他者とともによりよく生きていく為の見通しを持つことにつながるのではないかと考えている。

7 他教科・領域との関連

- ・特別活動
- 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成(学級活動の内容(2)ーア))

8 本時の指導

- (1) 本時のねらい
 - 昔話「桃太郎」について、鬼を退治する桃太郎と、退治された鬼の子との、それぞれの立場に立って考えることよって、いろいろなもの見方や考え方があつて理解することとともに、考え方や立場の違いが理解し合うためには、互いに認め合い、尊重しようとする気持ちの大切さに気付くことができる。

(2) 校内研とのかかわり

研修主題

思いやりと道徳的な判断力を高めるための指導の研究
～道徳的価値について、考え議論する特別の教科道徳の授業実践を通して～

研究主題との関連において、本時の指導にあたっては2つの場面を設定する。

① 考え議論する場面

- 考える場面・・・「6. 問いの設定」
「7. 場面整理」
「8. 多面的・多角的な考えを引き出す場面（意見の拡散）」
- 議論する場面・・・「9. 考えを整理し、イメージを広げる場面」
「10. 多面的・多角的な発問をし、道徳的価値を深めていく場面（意見の収束）」
「11. 多様な考えを知る場面」

② 問題解決的な活動の場面

- 自ら道徳的問題に取り組む場面・・・・・・・・・・「5. 問題の所在を確認」
- 人として何かできることはないか考えさせる場面・「12. 人間理解の場面」

9 資料分析

主要場面	登場人物の心の動き	気づかせたいこと	発問
悪い鬼がいろいろな国から宝を取り上げているという話を聞き、鬼退治に行く決意。	桃太郎にとって鬼は悪者。自分の身の周りの人や大切な人を守りたいという想いがある。	桃太郎の立場から鬼退治がどんなものなのか気づかせたい。	桃太郎はどういう想いで鬼を倒しに行ったのか。
島に着くと、鬼達は、太い鉄の棒を振り回かし、桃太郎達に向かってくる。	やはり桃太郎にとって鬼は悪者。(再確認)		
ボクのおとうさんは桃太郎というやつに殺されました。	桃太郎が憎いし、父を殺されてつらい。鬼退治の前に事情を聞いて	鬼の子の立場から鬼退治がどんなものなのか。また、	鬼の子はどういう想いで、書いたのかな。鬼退治の前に桃太郎

ほしかった。鬼の生活も考えてほしかった。	鬼退治の前に桃太郎にどうしてほしかったのか気付かせたい。	桃太郎にとっては、鬼を倒すことによつて、めでたし、めでたしとめでたし。しかし鬼の子にとつては、めでたし、めでたし。	桃太郎にとつても、鬼の子にとつてもお互いに想いがありそいかな。解決するためにはお互いにどんな気持ちが必要かな。
----------------------	------------------------------	---	---

10 本時の展開

議題	教師の働きかけ	予想される反応	留意点 ● 評価
導入	1. 事前アンケートの紹介 ①正義や正義の味方という言葉の意味をおさえる ○正義 人が踏み行すべき正しい道筋 社会全体の正しい秩序 ○正義の味方 弱者を救い、悪者をこらしめる人 2. 学びのテーマの揭示 本場の正義について考えよう 3. 登場人物の確認 4. 範読 5. 問題の所在を確認 発「この資料を読んで、考えさせられた部分は何ですか」 ①資料の問題場面に線を引きかせる ②生徒に発表させる 6. 問いの設定（中心発問） 桃太郎がしたことは、本場の正義だったのだろうか。		○教材に関わる教師の悩みや考えを示し、教師も一緒に考える姿勢をもつ。 ○この後の「考え議論する」ことに向けて、正義という言葉をおさえる ○教材に関わる写真を数枚提示し、関心を高める ○教師が範読 ○問題の所在がない場合も可 ○生徒の発言に対して、問い返しや、切り返しを行い、問いを設定につなげる

板書計画

学びのテーマ 本当の正義について考えよう



子鬼

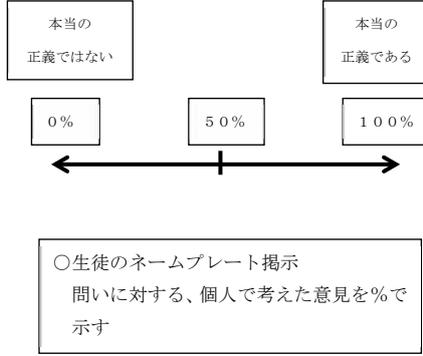
お父さんを桃太郎に殺された
(泣いている)



桃太郎

鬼は悪者
いろいろな国から宝を取り上げている話を聞く
(木匠の棒を振り回し、桃太郎に向かってへる)
大切な人を守りたい
(首をくねる)
次は自分たちの村かも
(村のみんなが心配している)
鬼を倒す
(宝を取り返した)

桃太郎がしたことは、本当の正義だったのだろうか。



発問 桃太郎はどういう想いで鬼を倒しにいったのか
発問 子鬼はどういう想いで書いたのかな

発問 子鬼は鬼退治の前に桃太郎にどうしてほしかった？どう考えてほしかった？

発問 お互いに解決するためにどんな気持ちが必要？

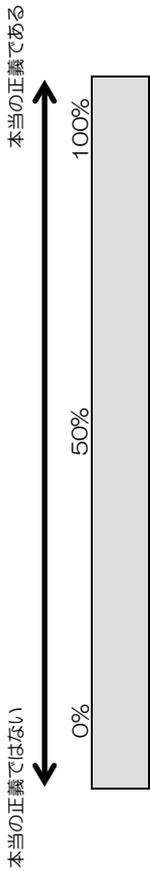
本当の正義って何だろう？

- ・ 自分の意見を言ったり、相手の考えを聞いてみたりすること
- ・ 相手が間違っていると決めつけないこと。相手の立場になって考えてみる
- ・ 相手の存在を認め、立場や考えを尊重すること
- ・ 見方によって変わるものなので、お互いに理解しようとする
- ・ 自己中心的な考えではなく、社会をよりよくしていくようにする気持ちのこと

本当の正義について考えよう

名前

1 桃太郎がしたことは、本当の正義だったのだろうか。○を付け、理由を考えよう。



そう考えた理由は？

1つの付箋に、1つの考えを記入。
☆なるべくたくさんの方の考えを書こう☆

ここに黄色の付箋を貼る。
黄色の付箋には、**本当の正義ではない理由**を記入

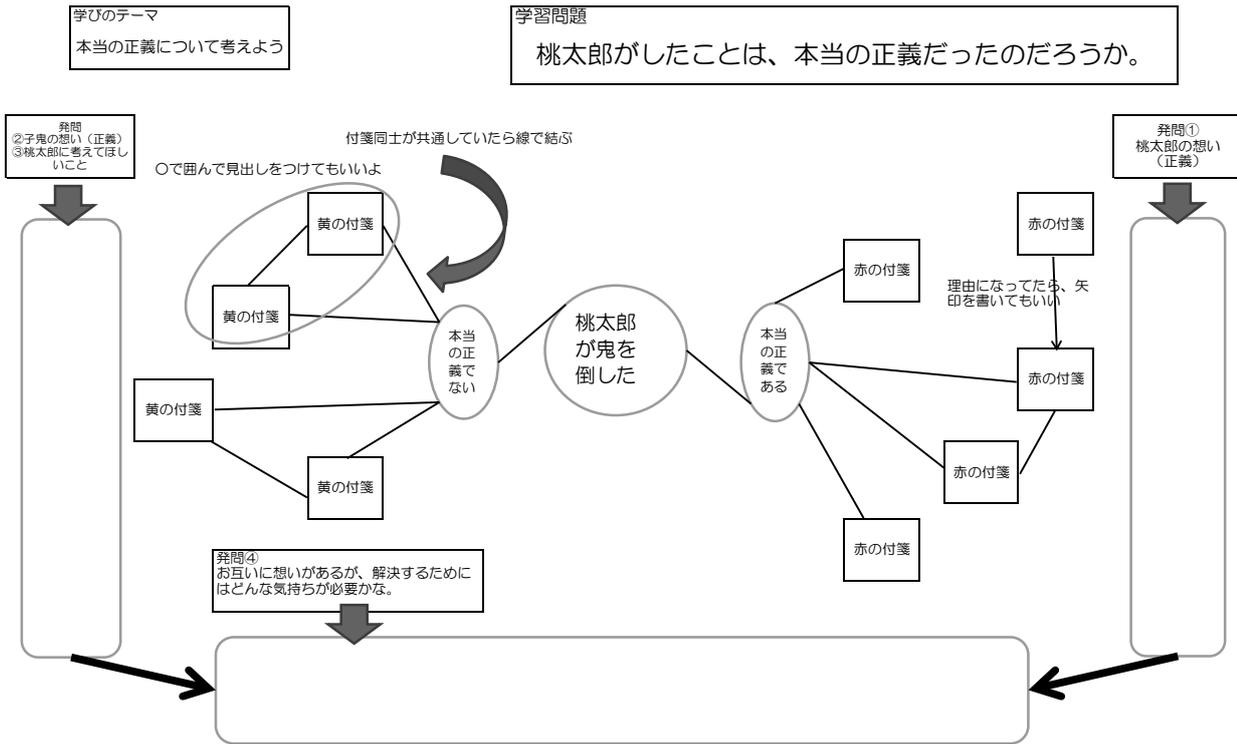
ここに赤色の付箋を貼る。
赤色の付箋には、**本当の正義である理由**を記入

自分の考えをより明確にしたいために……
自分の意見はこれだよ、他の意見はないのか考えよう。

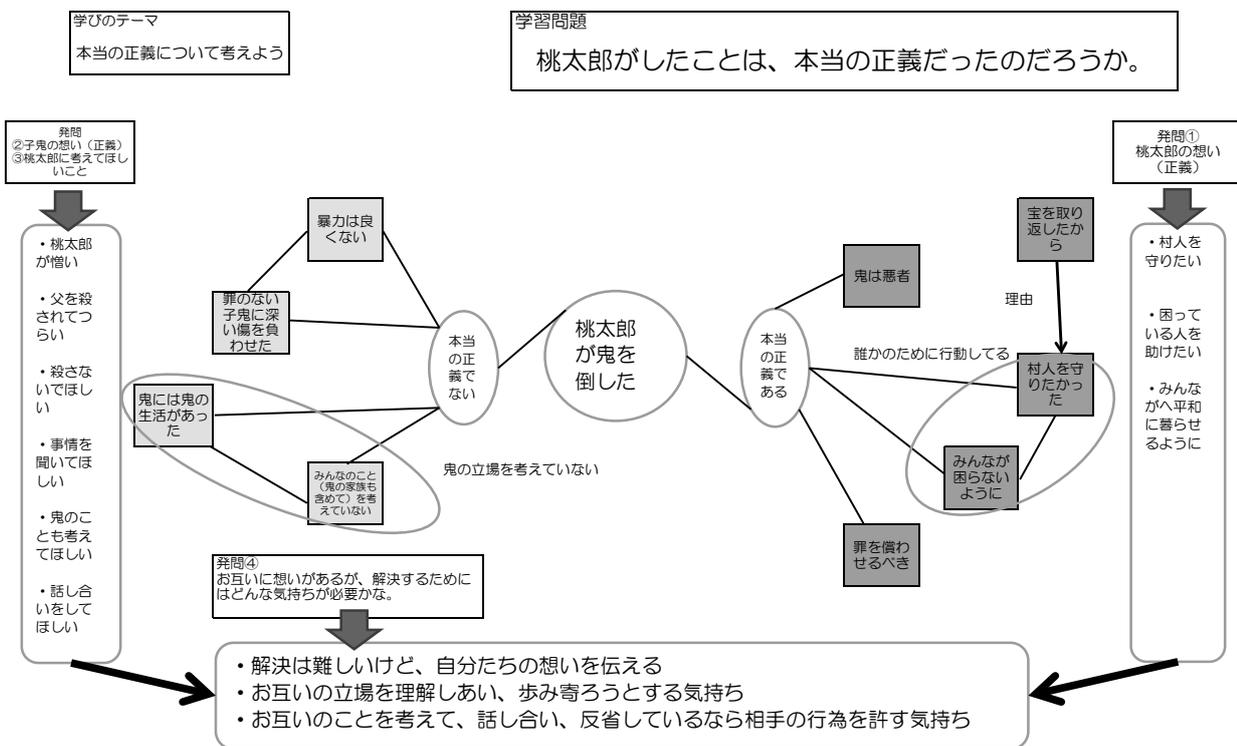
2 本当の正義って何だろう。

他の意見から学ぼう

イメージマップ 見本



イメージマップ 参考例



【1年 道徳年間指導計画】

月	回数	内容項目	授業者	資料名(読みが いちばん、ひかるとき(光村図書))	学校行事
4~5月	1	A-(1) 自主、自律、自由と責任	学担	自分で決めるって?	入学式
	2	A-(2) 節度、節制	学担	自然教室での出来事	1学期始業式
	3	C-(14) 家族愛、家庭生活の充実	学担	さよならの学校	新入生歓迎会
	4	D-(19) 生命の尊さ	学担	ひまわり	運動会
	5	A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志	学担	へんと共にーアニメー・サハバ	
	6	B-(8) 友情、信頼	学担	いちばん高い階段の絵	
	7	B-(9) 相互理解、寛容	学担	私の話を聞いてね	社行式
	8	B-(6) 思いやり、感謝	学担	席を譲ったけれど	中体連
	9	C-(15) よりよい学校生活、集団生活の充実	学担	一粒の種	期末テスト
	10	C-(11) 公正、公平、社会主義	学担	魚の涙	1学期終業式、夏休み
	11	D-(19) 生命の尊さ	学担	捨てられた悲しみ	実力テスト
	12	A-(5) 真理の探究、創造	学担	六十二枚の天気図	2学期始業式
9~12月	13	B-(7) 礼儀	主任	学習机	新人戦
	14	B-(9) 相互理解、寛容	教務	言葉の向こうに	文化祭
	15	B-(6) 思いやり、感謝	学担	父の言葉	修学旅行
	16	D-(19) 生命の尊さ	教務	エルマおはあさんからの「最後の贈りもの」	体験学習
	17	C-(11) 公正、公平、社会主義	学担	やっばり樹里は	中間テスト
	18	C-(12) 社会参画、公共の精神	学担	僕たちの未来	期末テスト
	19	C-(13) 勤労	学担	私が働く理由	生徒会選挙
	20	C-(10) 遵法精神、公徳心	学担	仏の眼蔵	実力テスト
	21	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	学担	なおしもん	2学期終業式
	22	D-(12) 自然愛護	学担	鳥りが負せてくれたもの	
	23	C-(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	学担	日本のお米	
	24	C-(18) 国際理解、国際貢献	主任	異文化の人々と共に生きる	
25	D-(12) 感動、畏敬の念	主任	命の木		
26	C-(15) よりよく生きる喜び	学担	銀色のシャープペンシル		
27	A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志	主任	栄光の架け橋		
28	A-(1) 自主、自律、自由と責任	学担	裏庭での出来事	3学期始業式	
29	A-(2) 節度、節制	学担	「養生訓」より	実力テスト	
30	C-(15) よりよく生きる喜び	主任	撮れなかつた一枚の写真より	期末テスト	
31	B-(8) 友情、信頼	学担	親友	卒業式	
32	C-(10) 遵法精神、公徳心	学担	雨の日の昇降口	修了式	
33	C-(15) よりよい学校生活、集団生活の充実	学担	初めての伴奏		
34	A-(3) 向上心、個性の伸長	学担	カメは自分を知っていた		
35	B-(6) 思いやり、感謝	学担	旗		
補充	B-(6) 思いやり、感謝		橋の上のおおかみ		

斜線の文字の授業は別教材や道徳調査など

【2年 道徳年間指導計画】

月	回数	内容項目	授業者	資料名(読みが いちばん、ひかるとき(光村図書))	学校行事
4~5月	1	C-(15) よりよい学校生活、集団生活の充実	学担1	テニスの危機	入学式
	2	A-(2) 節度、節制	学担1	夢中になることは悪いこと?	1学期始業式
	3	C-(14) 家族愛、家庭生活の充実	主任	三百六十五回分の「ありがとう」	新入生歓迎会
	4	D-(19) 生命の尊さ	学担1	命が生まれるときに	運動会
	5	B-(8) 友情、信頼	学担1	友達はライバル	
	6	A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志	教務	雪に耐えて梅花麗しー黒田人貴	
	7	A-(1) 自主、自律、自由と責任	学担1	カラカラカラ	社行式
	8	B-(8) 友情、信頼	学担1	逢うんだよ、健司	中体連
	9	C-(10) 遵法精神、公徳心	学担1	民主主義と多数決の近くで遠い関係	期末テスト
	10	B-(6) 思いやり、感謝	主任	松葉づえ	1学期終業式、夏休み
	11	D-(19) 生命の尊さ	学担1	つながる命	実力テスト
	12	C-(13) 勤労	学担1	段ボールペレットへの思い	2学期始業式
9~12月	13	A-(5) 真理の探究、創造	学担1	スカイツリーにかけた夢	新人戦
	14	A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志	学担1	夢を求めてパリンピック	文化祭
	15	B-(7) 礼儀	学担1	秀さんの心	修学旅行
	16	B-(9) 相互理解、寛容	学担1	ジコチュウ	体験学習
	17	C-(12) 社会参画、公共の精神	学担1	ちがいの意味を見直す	中間テスト
	18	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	学担1	私の町	期末テスト
	19	D-(12) 自然愛護	学担1	僕の仕事場は富士山です	生徒会選挙
	20	D-(12) 感動、畏敬の念	学担1	宇宙の始まりに思いを寄せて	実力テスト
	21	C-(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	学担2	さよなら、ホストファミリー	2学期終業式
	22	C-(11) 公正、公平、社会主義	学担2	明日、みんなで暮らそう	
	23	C-(18) 国際理解、国際貢献	学担1	アンネのパラ	
	24	A-(1) 自主、自律、自由と責任	主任	「許せないよね」	
25	C-(15) よりよく生きる喜び	学担1	あと一歩だけ、前に		
26	A-(3) 向上心、個性の伸長	学担1	優しさの光線		
27	B-(9) 相互理解、寛容	教務	「桃太郎」鬼退治		
28	A-(2) 節度、節制	学担1	箱根駅伝に挑む	3学期始業式	
29	C-(15) よりよく生きる喜び	学担1	入って、本当は?	実力テスト	
30	A-(3) 向上心、個性の伸長	学担2	嫌われるのを恐れる気持ち	期末テスト	
31	B-(6) 思いやり、感謝	学担1	気づかなかつたこと	卒業式	
32	C-(11) 公正、公平、社会主義	学担1	クロスプレー	修了式	
33	C-(12) 社会参画、公共の精神	学担1	紙芝居		
34	D-(19) 生命の尊さ	主任	泣きすぎてはいけない		
35	C-(10) 遵法精神、公徳心	学担1	無人スタンド		
補充	B-(8) 友情、信頼		泣いた赤おに		

斜線の文字の授業は別教材や道徳調査など

【3年 道徳年間指導計画】

月 回数	内容項目	授業者	資料名 口きみが いちばん ひかるとき(光村図書) メダルの向こう側に 小さな出来事 背番号10 あの日 生まれた命 「知らないよ。」 二通の手紙 がんばれば、おまえ 足袋の季節 アイツとオレ ぼくの物語 あなたの物語 電話番 根元を極めて―「お茶博士」辻村みちよ	学校行事
1	A-(4)希望と勇氣、克己と強い意志	学組1		入学式 1学期始業式 新入生歓迎会 運動会
2	C-(11)公正、公平、社会主義	主任		
3	B-(6)思いやり、感謝	学担1		
4	D-(19)生命の尊さ	学担2		
5	A-(1)自主、自律、自由と責任	主任		
6	C-(10)遵法精神、公德心	学担1		
7	A-(3)向上心、個性の伸長	主任		
8	C-(15)よりよく生きる喜び	学担1		
9	B-(9)相互理解、寛容	学担2		
10	C-(11)公正、公平、社会主義	学担1		
11	C-(12)社会参画、公共の精神	学担1		
12	A-(5)真理の探究、創造	学組2		1学期終業式、夏休み 実力テスト 2学期始業式 新人戦 文化祭 修学旅行 体験学習 中間テスト 期末テスト 生徒会選挙 実力テスト 2学期終業式
13	B-(8)友情、信頼	主任		
14	A-(1)自主、自律、自由と責任	学組1		
15	B-(7)礼儀	主任		
16	C-(12)社会参画、公共の精神	学組1		
17	C-(10)遵法精神、公德心	学担1		
18	C-(13)勤労	学担1		
19	C-(17)我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	学組2		
20	D-(12)感動、畏敬の念	学担1		
21	A-(3)向上心、個性の伸長	主任		
22	A-(5)真理の探究、創造	学担1		
23	D-(19)生命の尊さ	学担1		
24	C-(16)郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	主任		
25	C-(18)国際理解、国際貢献	学担1		
26	B-(9)相互理解、寛容	教務		
27	A-(4)希望と勇氣、克己と強い意志	学担1		
28	A-(2)節度、節制	学担1		
29	C-(15)よりよい学校生活、集団生活の充実	学担1		
30	C-(14)家族愛、家庭生活の充実	学担1		
31	D-(19)生命の尊さ	主任		
32	B-(8)友情、信頼	学担1		
33	B-(6)思いやり、感謝	学担1		
34	C-(15)よりよく生きる喜び	学担1		
35	C-(16)よりよく生きる喜び	学担1		
補充	A-(1)自主、自律、自由と責任	学担2		3学期始業式 実力テスト 期末テスト 卒業式 修了式
<small>斜線の文字の授業は別教材や道徳調査など</small>				

道徳の風

三沢市立第三中学校 第2号
文責:中嶋 令和元年7月19日

石岡先生の泣ける？道徳シリーズ

中体連の前後、2、3年生を対象に「よい集団とは」をテーマに授業が行われました。バスケットの有名な選手であった田中君とその仲間や先生との交流を通して、みんなが考えるよい集団」について考えました。

最初に考えた良い集団とは… (1回目)	↑ 皆の意見を聞いた後、その後の田中君たちの様子を聞きながら考えた良い集団とは (2回目)
一人一人が支え合えるままとまりのある集団 目標に向かって努力していく集団。 コミュニケーションがきちんとしてられる集団 (3年女子)	共に励まし合えてチームのことをたくさん考えていく集団。一人ではなく全員で考えコミュニケーションが取れる集団 全員が同じ気持ちで目標に向かって努力し続ける集団。 最後にみんなとやれて良かったと思えるような集団を作りたい。そのためには日ごろから全力でやるし、チームメイトとコミュニケーションをとって気持ちを伝え合うことが大切だと思う。 (3年女子)
目標をもっていて、みんながそれに向かって頑張っている。 仲間なんでも言い合える。 (3年女子)	チームが良い方向に行くような行動や発言を全員ができる、それをチームでサポートができる、一人一人が役割を果たし、より良い方向に全員で向かっていく集団。最後になつて後悔をしない。 (3年女子)
全員がひとつのことに向かって協力し合える集団。良いところを認め合う集団 (3年女子)	チームが全員でカバーできる集団。自己中心的な人は一人もおらず、常にチームメイトのことを考えて積極的に行動できる集団。最後に公開することのない集団。
目標に向かって全員が努力する集団。 積極的にコミュニケーションのとれる仲の良い集団 (3年男子)	1人のミスを全員でカバーできる集団。自分中心の人は一人もおらず、常にチームメイトのことを考えて積極的に行動できる集団。最後に公開することのない集団。
言いたいことを言い合える仲間がいる。お互いのことを考えながら生活できる。嫌なことがあっても、謝ったらすぐ許してくれるような優しい人がある。 (2年女子)	自分のことより、相手を優先して、行動できる集団 誰かを責めたりしないでみんなで頑張れる集団 はげましたり声掛けを進んでやることができるとみんなががんばることができると
お互いに褒め合ったり、注意し合ったりできる集団 自分の意見などを言えるような雰囲気の良い集団 (2年女子)	自分のためにも、相手のためにも動ける集団 運動が苦手だったりできないことがあっても、全員でサポートできる集団 一人一人が全員のために努力できる集団。
仲が良い集団、だめなことか、悪いことを注意できる集団。なんでも頑張れる集団 (2年男子)	1人はみんなのためににかやや、みんなはひとりのために、何かをする。がんばっていたり、一生懸命やっていたりする人のために、みんながその人に何かやってあげたいと思える集団がいい集団だと思う。

あなたが考える良い集団とは (2回目)

2年生	3年生
<ul style="list-style-type: none"> ・チームを責めない ・チームと協力する ・あきらめない ・チームのために助け合える集団 ・ミスしても責めない集団 ・仲間を一番に考える集団 ・一緒に喜ぶ、泣く、気持ちがひとつ ・全員で悪いところを直そうと努力する ・負けても勝っても誰も責めない ・たとえ一人ができなくてダメだとしても、その人をカバーしたり、教えたりして全員で協力していろんなことをする。 ・弱音を吐いたり、けんかをしたりせず、みんな喜んで泣いたり泣いたりできるくらい頑張れる。 ・仲間を思いやり、積極的にどんな時も助け合うことができる仲間思いのチーム。 ・仲間を大切に ・協力し合い、失敗は次への1歩と考える ・団結できるチーム ・1人1人を支えることのできるチーム ・1人がみんなのために、みんなが一人のために支え合える集団 ・この人のために何かしようと思える集団 ・一緒に笑って、楽しんで、バカやって、この仲間たちと一緒に良かったと思えるのが良い集団。 ・自分たちが後悔しない方法を考えられる ・仲間のために自分ができることを考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが誰かのために、一人がみんなのために一生懸命になって助け合える、互いに励まし合い、支え合い、周りを信頼し共に成長ができる集団 ・チームがひとつになる、喜び合える、助け合える ・作戦を立てる、勝ちへ導く、みんな一緒にやる ・泣ける、笑える、頑張れる、そして笑顔で追われる。 ・頑張っている人を認めて、称えあいながら、お互いに助け合って目標に向かえる集団 ・たくさんの人から応援される集団 ・笑顔で終われる集団 ・全員の頑張りを認められる集団 ・努力できる集団 ・仲間と共に喜び合える集団 ・一人一人がチームのために頑張れる集団 ・人に感謝できる集団 ・積極性のある集団 ・チームのことを考えて行動できる集団 ・チームメイトを支えることができる集団 ・みんな、サポーターしたりアドバイスしたりして、失敗をカバーし成長していくチーム。そういうチームが自分にとって一番強いチームだと思う。 ・裏方の人もチームの一員として見てブレインする ・良い集団は後悔しない。 ・一人一人が一人一人を見ているチーム



道徳の窓

三沢市立第三中学校 第3号 令和元年8月20日
文責:中嶋

★道徳研究発表指導案検討会より・・・

指導案の最後に載せている「評価の視点」を「生徒の取組状況のポイント」に変更

ということ、道徳部会（中嶋・今）で疑問に
ついての回答を探りました！

「評価の視点」は「大きくくりなまとまりを踏ま
えた評価」からきています。

「大きくくりなまとまりの評価」で大切なことは…

そもそも、「評価の視点」は
どういうことなのか？具体的に
どんなことなのか？

学習指導要領の道徳科における評価より

『道徳性の諸感相である道徳的な「判断力・心情・実践意欲とその態度」のそれぞれについて分節し、学習状況を分析的にとらえる観点別評価を通じて見取ろうとすることは、生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価としては妥当ではない。授業において生徒に考えさせることを明確にして、「道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める。」という目標に掲げる学習活動における生徒の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を見取ることが求められる。

その際、個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とする…

よって、「評価の視点」をどう見えていくかということについて、「①道徳的価値についての理解を基に、②自己を見つめ、③物事を広い視野から多面的・多角的に考え、④人間としての生き方についての考えを深める」の四つの「大きくくりな評価の視点」の中で、本校の重点である「考え議論する道徳」



のポイントから、その議論から得られる「多面的・多角的に考え」の大切にしたい。以上のことから四つの評価の視点を

「生徒の取組状況のポイント」として扱っていきましょう。

また、①道徳的…③物事を…の視点をメインに生徒の取組状況のポイントとして載せてください。

道徳の窓

三沢市立第三中学校 第4号 令和元年8月22日
文責:中嶋

★道徳研究発表指導案検討会・・・パート2 【助言者の先生方の指導から】

指導案の「本時の展開」指導上の留意点（指導と支援）について

「留意点についてわかりやすい記号、評価に関することを入れたほうが良

⇒ 留意点○ 評価（方法）●に変更

【解説】本時の展開に評価について追加したことについて…

①留意点に書かれる評価は

**本時の生徒の様子から評価につながるポイント（視点）である。
評価の方法は観察、プリント、発表など**

②「生徒の取組状況のポイント」について

この部分もその授業の評価にあたるのではないか？という疑問が出てきますが…

本校では、「生徒の取組状況のポイント」は、本時だけの評価ではなく「大きくくりなまとまりを踏まえた評価」として通年の評価をするとき、「本時はこのポイントを重点として見ています」というものだということ、共通理解していきましょう。

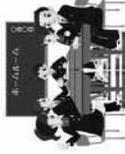
この評価についてさらに理解を深めたい方は「道徳教育を学ぶための重要項目100」教育出版（職員用の図書資料棚にあります！）P8 6～87を見てください。

P 137には4学習指導案と評価より

『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』にもあるように、道徳科で養う道徳性は、児童が人間としてよりよい生き方を志向し、諸問題に適切に対応する力の基盤となるものであり、道徳的価値をどれだけ理解したかなどの基準を設定することはふさわしくない。また、個々の内容項目ごとではなく、学期や学年といった大きくくりで児童の評価を行うこととされている。

上記を踏まえ、もし学習指導案に評価の観点を表記するなら「主人公の生き方を手がかりにして、**主題やねらいについて、自分なりの根拠をもって考え、話し合うことができる**」というような個人の成長の見取りに関する観点を支援と留意点に書くことができます。

あっという間に夏休みが終わり、2学期がスタートします。2学期の道徳の取組は、1か月ごとに主任が中心となり授業者の計画を立てましょう。主任の先生方には「〇月の授業担当」というプリントを準備するので記入後、中嶋に提出してください。また、担当学年以外の先生が授業を行いたい場合は、中嶋を窓口にしてお知らせください。忙しくなる2学期ですが、みんなでコミュニケーションをとり乗り切りましょう！



令和元年度

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業報告集

令和2年3月

編集・発行 青森県道徳教育推進協議会

